

# PBX マニュアル

RTV700 Rev.8.00.45 対応 —— 第 3.1 版

## ● 0 : このドキュメントを読む方へ

このドキュメントは RTV700 と PBX 主装置を接続して、インターネット経由の IP 電話を利用するための設定内容の解説とその手順を説明します。主に PBX 主装置の設置管理を行う方を対象に書かれています。

設定の内容は RTV700 が工場出荷状態であることを前提としています。このドキュメントはファームウェアが **Rev.8.00.45** について説明しますので、これ以降のリビジョンの場合には内容が異なる場合があります。ファームウェアに関する最新情報についてはヤマハの Web ページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) を参照してください。

梱包箱には、本書を除く以下の 4 冊子が同梱されています。知りたい内容によって適宜参照してください。最新版はヤマハの Web ページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) を参照してください。これらはすべて PDF ファイルで提供されます。

タイトル	表紙	内容
設定マニュアル		ブロードバンド回線または ISDN 回線によりインターネット接続するために必要な基本的セットアップについて、ネットワークへの接続形態毎ごとに具体的な手順を説明します。
活用マニュアル		VoIP 通話、VPN を構成するための手順、電話や FAX の使い方、セキュリティに関する機能、その他応用的な機能の使い方について説明します。
困ったときは		初期導入時に、インターネットへ接続できない、電話が使えないなどのトラブルを解決するための手順を説明します。
コマンドリファレンス (Rev.8.00.41 対応版)		RTV700 の設定の本質であるコマンドの意味とその設定方法について説明します。本書の中で出てくるコマンドの詳細についてはこちらを参照してください。
PBX マニュアル		本書です。RTV700 と PBX 主装置を組み合わせる場合の典型的な事例をもとにして具体的な設定方法を解説します。

なお、RTV700 に接続する PBX 主装置側の説明は本ドキュメントでは記載していませんので、PBX 主装置の取扱説明書を参照してください。

## ○0-1：目次

0：このドキュメントを読む方へ.....	1
0-1：目次.....	2
0-2：設定を行うための環境の確認と準備.....	2
0-3：注意事項.....	4
1：ケース1「PBXポートのみを使用し、IP電話を利用」.....	5
2：ケース2「PBXポートのみを使用し、ISDNとIP電話を利用」.....	12
3：ケース3「PBXポートとTELポートを使用し、IP電話を利用」.....	19
4：ケース4「PBXポートとTELポートを使用し、ISDNとIP電話を利用」.....	27
5：ケース5「ブロードバンド回線に接続し、カスケード接続でIP電話の12通話を利用」....	35
6：ケース6「ブロードバンド回線に接続し、NetVolanteインターネット電話を利用」.....	46
A：付録.....	53
A-1：設定に関する用語の解説.....	53
A-2：電源OFF時・停電時の動作.....	56
A-3：PADの調整.....	57
A-4：電話機からのリビジョンアップ.....	58
A-5：FUSION IP-Phoneの登録.....	61
A-6：プレフィックスの設定について.....	62
A-7：LANポートのIPアドレス変更について.....	64
A-8：WANポートのイーサネット通信モードについて.....	65

## ○0-2：設定を行うための環境の確認と準備

RTV700に設定を行うためには、パソコンとLANポート経由で接続し、パソコンのWebブラウザを使用します。Webブラウザに表示された画面のボタン操作を行うことで画面の移動ができ、画面の中のチェックボックスを選択したり、入力欄に文字を入力することで設定が行えます。

- ① RTV700のLANポートとPCのLANポートを付属品のLANケーブル（または同等品）で接続します。
- ② RTV700の電源を入れます。
- ③ パソコンの電源を入れます。（RTV700の起動が完了した後にONにする必要があります）
- ④ パソコンのIPアドレスの設定を「自動」に変更します。
  - ※ 「自動」になっていることが既知の場合はこの操作は不要です。
  - ※ 「自動」に設定するためには『設定マニュアル』のP.84のWindows XPの手順を参照してください。
  - ※ Windows XP以外のOSの場合は、『設定マニュアル』のP.80「手動でネットワーク設定を変更する」を参照してください。

⑤パソコンの Web ブラウザから **http://192.168.100.1/** を開きます。

※具体的な手順が知りたい場合は『活用マニュアル』の P.13 を参照してください。



⑥かんたん設定ページから必要な設定を行います。

ファームウェアのリビジョンを示します。

ポート	使用制限	使用状態	ダイヤルイン	イナナンバーポート	ネットボラン子電話番号	使用状態	操作
PBX1ポート	使用制限	使用しない	ダイヤルイン	1ポート / 2ポート / 3ポート	815055077343	未使用	切断
	使用状態	未使用	(設定なし)	1ポート / 2ポート / 3ポート		未使用	切断
PBX2ポート	使用制限	使用しない	ダイヤルイン	1ポート / 2ポート / 3ポート	815055077344	未使用	切断
	使用状態	未使用	(設定なし)	1ポート / 2ポート / 3ポート		未使用	切断
TEL1ポート	使用制限	使用しない	ダイヤルイン	1ポート	815055077345	未使用	切断
	使用状態	未使用	(設定なし)	1ポート		未使用	切断
TEL2ポート	使用制限	使用しない	ダイヤルイン	2ポート	815055077345	未使用	切断
	使用状態	未使用	(設定なし)	2ポート		未使用	切断
VoIP	使用制限	未使用	ダイヤルイン	2ポート	815055077345	未使用	切断
	使用状態	未使用	(設定なし)	2ポート		未使用	切断
	使用制限	未使用	ダイヤルイン	2ポート		未使用	切断

工場出荷状態から、プロバイダへ接続するための設定をウィザード形式で行う場合にクリックします。

ISDN 電話、IP 電話の設定を行う場合にクリックします。

プロバイダの設定に詳細な変更を加えたり、高度な設定を行う場合にクリックします。

プロバイダを登録すると現れます。ボタン操作により接続・切断が行えます。

IP 電話サーバを登録すると現れます。ボタン操作により接続・切断が行えます。

音声通信に関する設定情報と状態を表示します。

データ通信に関する設定情報と状態を表示します。

## ○0-3：注意事項

ISDN 回線に関する重要な注意事項：

【インタフェース形態について】 「ISDN ポート」はポイント・マルチポイント接続 (P-MP 呼毎または P-MP 常時) 契約でのみ動作し、ポイント・ポイント (P-P) 契約では動作しません。

【同期について】 PBX 主装置が ISDN 回線を収容するときは、**RTV700** を ISDN 回線と同期させてください。

【給電について】 「S/T ポート」または「U ポート」に ISDN 回線を接続しない場合、PBX1 ポートに接続した機器に給電を監視する機能があれば、本機の設定を「内蔵 DSU を使用しない」に設定してください。工場出荷設定では「内蔵 DSU を使用する」になっています。

【付加サービスについて】 **RTV700** に接続される ISDN 回線の以下に示す各サービスは PBX ポートに接続される PBX 主装置でご利用頂けますが、それ以外のサービスはご利用頂けません。i・ナンバーについては『活用マニュアル』80 と 84 ページをご参照ください。

- 『INS ナンバー・ディスプレイ』とそのオプションの『INS ネーム・ディスプレイ』
- 『ダイヤルイン』
- 『サブアドレス通知』
- 『i・ナンバー』

PBX 主装置に関する注意事項：

【接地について】 **RTV700** は必ず接地（アース）してください。PBX 主装置との接続では適切な接地を取ることが特に重要です。不適切な接地では、発着信が正常に動作しない、TEL ポートのダイヤルイン信号が正常に出力されない、通話に雑音が出るなどの症状が出ます。

【プレフィックスについて】 通常 PBX 主装置では"#"キーに即時発信の意味があるため、RTV700 で使うプレフィックスに"#"を含ませることができません。工場出荷設定では SIP の発信に"9#"、NetVolante インターネット電話の発信に"##"（設定変更不可）を使用する設定になっていますので、PBX 主装置で"#"を通常のダイヤル番号として使用できない場合には RTV700 のプレフィックスの設定を変更してください。

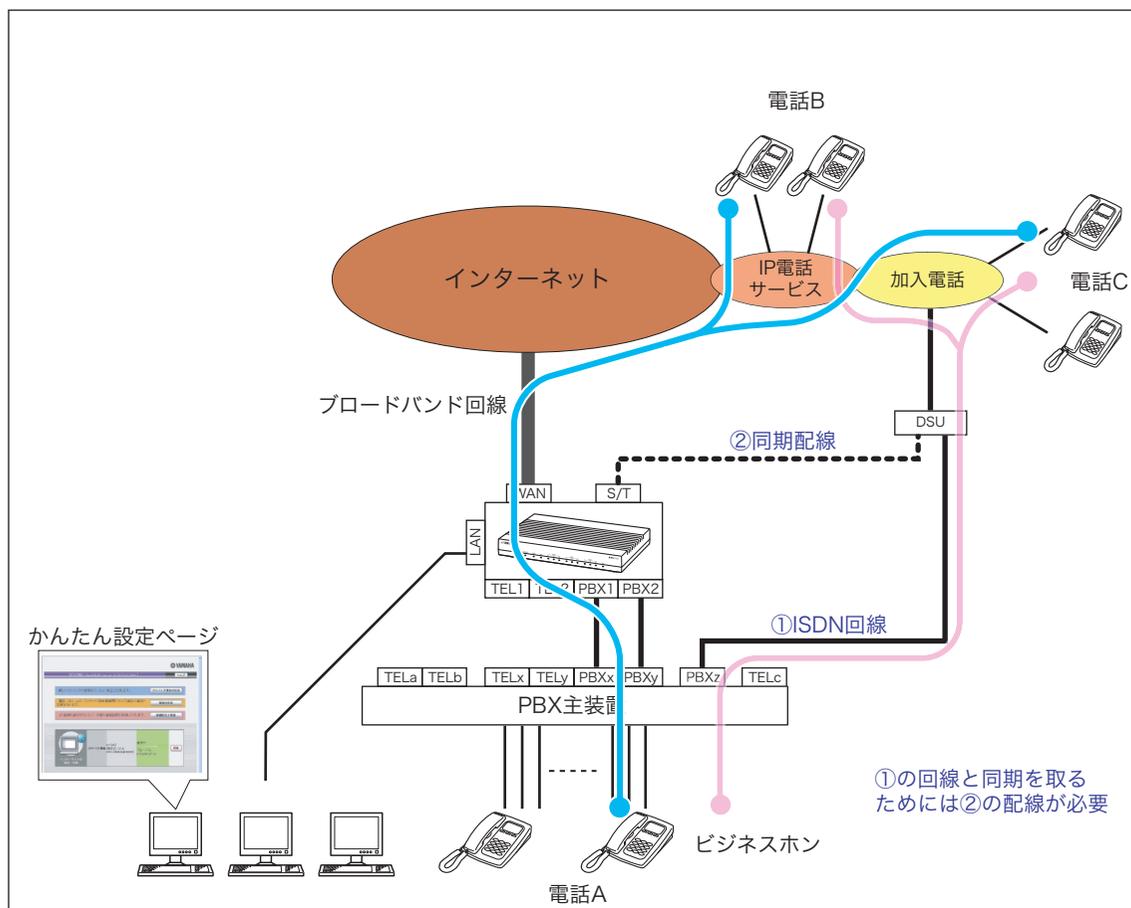
【側音について】 RTV700 の「TEL ポート」と「PBX ポート」で側音のレベルが異なる場合があります。PBX 主装置に側音の調整機能がある場合には、「TEL ポート」側に対して適切なレベル調整を行ってください。

【G.729a による音声通話について】 G.729a による通話は PBX ポートと TEL ポートでそれぞれ最大 2 通話（合計最大 4 通話）です。ただし、ISDN 回線の通話状況により、G.729a による通話が装置全体で同時 2 通話までとなることがあります。G.729a については『コマンドリファレンス』172 ページ「20.6 使用できるコーデック種別の設定」をご参照ください。

その他一般的な注意事項：

『設定マニュアル』の P3, 4, 7, 8, 9 を参照してください。

## ● 1 : ケース 1 「PBX ポートのみ使用し、IP 電話を利用」



### ○ 1-1 : 設定構成の基本的な条件

- ・ ISP と契約し RTV700 にその設定を行うことで、RTV700 の LAN ポートに接続した PC からインターネットアクセスが可能。RTV700 はグローバル IP アドレスを使用。
- ・ LAN ポートのネットワークは 192.168.100.1/24 のプライベートネットワーク。
- ・ IP 電話サービスと契約し、1 アカウントで 2 通話可能な契約の 2 アカウント (= 4 通話分) を取得し、RTV700 にその設定を行うことで、PBX ポートから IP 電話を利用可能。
- ・ NTT の PSTN または ISDN 回線を PBX 主装置で収容。
- ・ RTV700 の ISDN (U または S/T) ポートには音声通話のための ISDN 回線を接続しない。
- ・ PBX ポートの 4 通話は IP 電話アカウントの 2 つに対応させる。
- ・ TEL ポートは使用しない。
- ・ プレフィックスを付けずにすべて IP 電話サービス経由で発信する。
- ・ IP 電話サービスからの着信は PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2) の順番で空きポートに順次着信動作する。
- ・ 設定内容のセキュリティ保護のために、RTV700 本体設定アクセスにパスワードをかける。

## ○ 1-2 : 構成図の説明とポイント

**インターネットアクセス：** RTV700 の「WAN ポート」にブロードバンド回線を接続して、インターネットへ接続できるようにします。ブロードバンド回線は、IP 電話サービスを利用するためにグローバル IP アドレスが割り当てられる契約である必要があります。RTV700 の「LAN ポート」側はプライベート IP アドレスで、インターネット通信を行うための PC が接続されます。いずれかの PC のブラウザを使用して、RTV700 の設定を行います。

**PBX 主装置：** PBX1 と PBX2 ポートを PBX 主装置と接続します。TEL1, TEL2 ポートには何も接続しません。PBX 主装置下の電話 A は、ブロードバンド回線によりインターネットを経由して IP 電話サービスに接続された電話 B、及びその先にある加入電話の電話 C と通信します。

**IP 電話：** IP 電話サービスの契約を行います。IP 電話の発信において、PBX1 と PBX2 ポートでは同時に 4 通話が可能です。従って、例えば 1 アカウントで 2 発信が可能なサービスであれば 2 アカウントの契約を行います。

**同期配線：** PBX 主装置が ISDN 回線を収容するときは、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」とのバス配線が必要になります。またこの時「S/T ポート」で着信を取ってしまわないように、RTV700 側では明示的に ISDN 回線の発着信を禁止する設定にします。同様に TEL1 や TEL2 ポートで着信を処理しないように、RTV700 側では明示的にアナログポートの発着信を禁止する設定にします。

## ○ 1-3 : 必要な設定項目とその手順

下表の左端に示した「手順」の番号順に、「設定手順」で説明された内容の操作を行います。特に手順の 1、9、10、11 番は、この順番に操作を行わないと設定手順に示された内容が画面に現れませんので注意してください。なおこの設定例の場合、IP 電話サービスは、1 契約アカウント番号で 2 発信できることを仮定しています。

	設定項目	設定値	設定手順
手順1	WAN ポートの設定		
	回線種別	PPPoE を用いる端末型 ADSL 接続	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [プロバイダ情報の設定] ボタンを押して、必要な情報を ISP の契約書を確認しながら入力する。  ※トップページに戻ったら「プロバイダ接続」欄で正常に接続されること、グローバル IP アドレスを取得できていることを確認する。
	設定名	OFFICE(例)	
	認証 (ユーザ ID)	abcdefg(例)	
	認証 (接続パスワード)	12345xyz(例)	
DNS サーバアドレス	133.176.200.1(例) 133.176.200.2(例)		
手順2	ISDN ポートの設定		
	内蔵 DSU の使用	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「本機の ISDN DSU 機能」を変更し、「設定の確定」ボタンを押す。  ※「ISDN LI」ランプの点灯を確認する。
	ISDN U ポートの極性	任意	
契約回線番号	空欄		

	LAN ポートの設定		
	IP アドレス	192.168.100.1	設定不要
	ネットマスク	24 ビット	
	DHCP サーバ	192.168.100.1	
	リース IP アドレス	192.168.100.2 - 192.168.100.191	
手順3	PBX1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX1 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順4	PBX2 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX2 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX2 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順5	TEL1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL1 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1	
	即時発信	する	
手順6	TEL1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [TEL1 ポートの設定] ボタンを押して、「VoIP 機能」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順7	TEL2 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	2	
	即時発信	する	

手順8 TEL2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [TEL1 ポートの設定] ボタンを押して、「VoIP 機能」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順9 VoIP の共通設定			
	VoIP 機能	使用する	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [VoIP の共通設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。  ※ 「発信時のプレフィックス設定」欄はこの段階では設定する必要がない。 ※ 「設定の確定」ボタンを押すと本機は自動的に再起動します。
	接続プロバイダ	手順1で設定した「設定名」を選択	
	QoS	QoS を行わない	
手順10 IP 電話サーバの登録			
	IP 電話サーバ (1)		⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [IP 電話サーバの設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。一連の操作を IP 電話サーバの数 (この場合2回) 繰り返す。  ※ 「発信時のプレフィックス」欄は2つの IP 電話サーバに対して重複しないものをダミーで入力する (例: 22,33)。これらは手順11の段階でコマンドで修正する必要がある。  ※ IP 電話サーバを登録してトップページに戻ったときに、「電話の設定・状態」の「VoIP」欄で IP 電話サーバと通信中であることを確認する。
	sip アドレス	05012345555@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username1(例)	
	パスワード	password1(例)	
	発信時のプレフィックス	22 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012345555	
	IP 電話サーバ (2)		
	sip アドレス	05012346666@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username2(例)	
	パスワード	password2(例)	
	発信時のプレフィックス	33 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012346666	
手順11 プレフィックスの設定			
	IP 電話サーバ (1)	PBX1 ポートから、なし = 直接	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  no isdn dial prefix sip server=1 prefix="22" no isdn dial prefix sip server=2 prefix="33" isdn dial prefix nt-bri1 sip server=1 isdn dial prefix nt-bri2 sip server=2 no analog extension dial prefix sip server=1 prefix="22" no analog extension dial prefix sip server=2 prefix="33"
	IP 電話サーバ (2)	PBX2 ポートから、なし = 直接	
手順12 着信動作			
	着信時の着信ベル鳴動モード	順次鳴動させる	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「着信時の着信ベル鳴動モード」を変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
手順13 アザーダイヤルトーン			
	アザーダイヤルトーン	出さない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  analog extension other-dial-tone off

手順 12 RTV700 アクセスのためのパスワード			
	パスワード	himitsu(例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  ※設定後、ブラウザがパスワードを要求する画面を表示したら「ユーザー名」欄には何も入力せず、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力する。

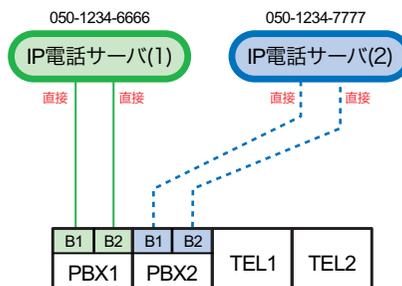
## ○ 1-4 : 設定の詳しい説明

**インターネットアクセス：** ブロードバンド回線の種別に応じたプロバイダの設定を行うことで、RTV700 はインターネットへ接続できるようになります。IP 電話を使用するために RTV700 にはグローバル IP アドレスが割り当てられる必要があります。RTV700 の LAN 側は工場出荷設定ではプライベート IP アドレスなので、インターネット通信を行うためにはアドレス変換が必要になりますが、プロバイダの設定を手順に従って行うことで自動的に必要な設定が行われます。これにより、LAN ポートに接続した PC から Web ページを見たり FTP によるファイルの送受信などができます。

**IP 電話：** IP 電話サービスの契約に基づいた IP 電話サーバの設定が必要になります。なお、IP 電話サーバの設定は上記のプロバイダの設定の後に行う必要があります。例えば、1 契約アカウントで同時 2 発信まで許可される IP 電話サービスを利用する場合は、PBX1 ポートの発信を "IP 電話サーバ 1" に、PBX2 ポートを "IP 電話サーバ 2" に対応させることで VoIP の同時 4 通話が可能になり、IP 電話サービスとの発信または、IP 電話サービス経由の NTT 回線への電話発信が可能になります。

IP 電話の発信時、PBX 主装置が RTV700 のどのポートを使って発信する場合でも、同一のダイヤル内容で自動的に下記の IP 電話サーバを選択して発信するように設定します。手順 11 では、各ポートのプレフィックスなし (= 直接) における IP 電話サーバを設定し、手順 10 で仮に設定したプレフィックスが実際の発信時の動作に影響を及ぼさないように、設定を削除しています。

ポートと IP 電話サーバの対応：



**着信動作：** IP 電話の着信を PBX1 と PBX2 の両方のポートへ向けることで、すべての IP 電話の着信を PBX 主装置で受けることができます。着信時のベル鳴動モードを「順次

鳴動させる」に設定すると、着信のたびに PBX 主装置の空き回線 1 つだけに着信動作させることができます。

「順次鳴動させる」動作：

着信ポート ⇒ PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2)

**同期配線：** なお、PBX ポートと PBX 主装置の間でクロックの同期を取るために、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」を ISDN 回線に接続する必要があります。従って、その ISDN 回線はバス配線されている必要があります。また、RTV700 が ISDN 回線からの着信を受けてしまわないように、「S/T ポート」での発着信を禁止する設定が各ポートごとに必要となります。

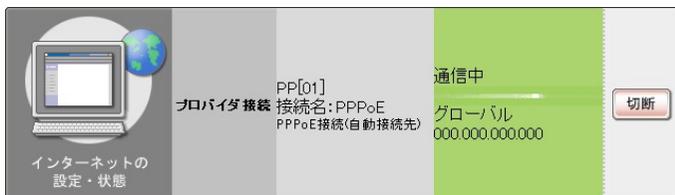
**その他：** RTV700 と回線との接続はブロードバンド回線 1 本なので、回線側にはデータ系と音声系の通信が混在することになり、データのためのトラフィックが大きくなると、音声データが影響を受けて音声途切れる場合があります。

## ○ 1-5：発着信の動作確認と調整

### □ インターネット回線の接続の確認

① かんたん設定ページの「インターネットの設定・状態」画面が「通信中」表示になり、その下に「グローバル」と表示されることを確認します。

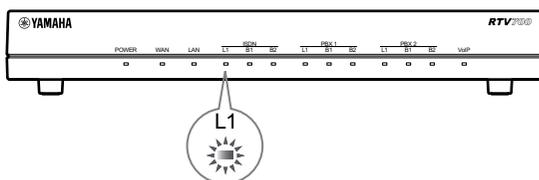
※表示を最新の状態にするためには、ブラウザの「更新」ボタンを押します。



② PC から <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/> 等の Web ページが開けるかを確認します。

### □ 同期のための ISDN 回線の接続の確認

① RTV700 本体前面の ISDN 「L1」ランプが点灯することを確認します。



□ IP 電話サーバの接続の確認

- ①かんたん設定ページの「電話の設定・状態」画面の「VoIP」欄で設定した2つの IP 電話サーバがすべて「通信中」表示になることを確認します。

	ネットボランチ電話番号 (登録なし)		
	使用状態	未使用	
VoIP	(IP電話サーバ1) 815055077 プレフィックス:22	通信中	切断
	(IP電話サーバ2) 815055077 プレフィックス:33	通信中	切断

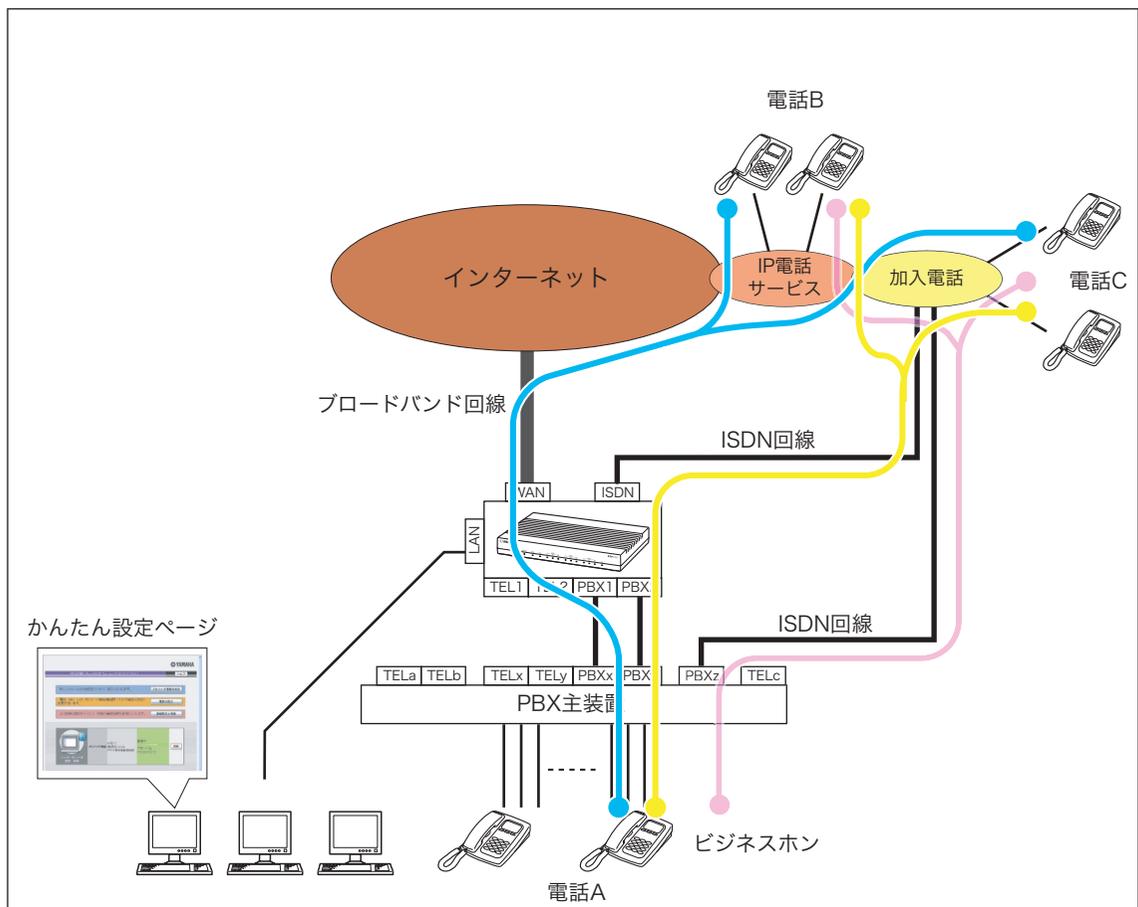
□ ビジネスホンから IP 電話サービス経由の発信動作の確認

- ① IP 電話サービスの 2 番号を使って、プレフィックス無しで発信して、同時 4 通話が正常に行えることを確認します。
- ② 契約した IP 電話サービスが加入電話への接続が可能な場合には、加入電話への発信と着信が正常に行えることを確認します。

□ IP 電話サービスからの着信動作の確認

- ① IP 電話サービスからの着信があるごとに、PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2) の順番に着信動作することを確認します。

## ● 2 : ケース 2 「PBX ポートを使用し、ISDN と IP 電話を利用」



### ○ 2-1 : 設定構成の基本的な条件

- ・ ISP と契約し RTV700 にその設定を行うことで、RTV700 の LAN ポートに接続した PC からインターネットアクセスが可能。RTV700 はグローバル IP アドレスを使用。
- ・ LAN ポートのネットワークは 192.168.100.1/24 のプライベートネットワーク。
- ・ IP 電話サービスと契約し、1 アカウントで 2 通話可能な契約の 2 アカウント (= 4 通話分) を取得し、RTV700 にその設定を行うことで、PBX ポートから IP 電話を利用可能。
- ・ NTT の PSTN または ISDN 回線を PBX 主装置で収容。
- ・ RTV700 の ISDN (U または S/T) ポートに音声通話のための ISDN 回線を接続する。
- ・ PBX ポートの 4 通話は IP 電話アカウントの 2 つに対応させる。
- ・ プレフィックスを付けると ISDN 回線で発信し、付けないと IP 電話で発信する。
- ・ IP 電話サービスからの着信は PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2) の順番で空きポートに順次着信動作する。
- ・ 設定内容のセキュリティ保護のために、RTV700 本体設定アクセスにパスワードをかける。

## ○2-2：構成図の説明とポイント

**インターネットアクセス：** RTV700の「WANポート」にブロードバンド回線を接続して、インターネットへ接続できるようにします。ブロードバンド回線は、IP電話サービスを利用するためにグローバルIPアドレスが割り当てられる契約である必要があります。RTV700の「LANポート」側はプライベートIPアドレスで、インターネット通信を行うためのPCが接続されます。いずれかのPCのブラウザを使用して、RTV700の設定を行います。

**PBX主装置：** PBX1とPBX2ポートをPBX主装置と接続します。PBX主装置下の電話Aは、ブロードバンド回線によりインターネットを経由してIP電話サービスに接続された電話B、及びその先にある加入電話の電話Cと通信します。また、ISDN回線により電話B、及びその先にある加入電話の電話Cと通信します。インターネット経由かISDN回線経由かをプレフィックスで使い分けます。

**IP電話：** IP電話サービスの契約を行います。IP電話の発信において、PBX1とPBX2では同時に4通話が可能です。従って、例えば1アカウントで2発信が可能なサービスであれば2アカウントの契約を行います。

## ○2-3：必要な設定項目とその手順

下表の左端に示した「手順」の番号順に、「設定手順」で説明された内容の操作を行います。特に手順の1、6、7、8番は、この順番に操作を行わないと設定手順に示された内容が画面に現れませんので注意してください。なおこの設定例の場合、IP電話サービスは、1契約アカウント番号で2発信できることを仮定しています。

	設定項目	設定値	設定手順
手順1	WANポートの設定		
	回線種別	PPPoEを用いる端末型 ADSL 接続	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [プロバイダ情報の設定] ボタンを押して、必要な情報を ISP の契約書を確認しながら入力する。  ※トップページに戻ったら「プロバイダ接続」欄で正常に接続されること、グローバル IP アドレスを取得できていることを確認する。
	設定名	OFFICE(例)	
	認証 (ユーザ ID)	abcdefg(例)	
	認証 (接続パスワード)	12345xyz(例)	
	DNS サーバアドレス	133.176.200.1(例) 133.176.200.2(例)	
手順2	ISDNポートの設定 (S/Tポートで接続する場合)		
	内蔵 DSU の使用	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「本機の ISDN DSU 機能」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ※ 「ISDN LI」 ランプの点灯を確認する。
	ISDN Uポートの極性	任意	
	契約回線番号	空欄	
	LANポートの設定		
	IP アドレス	192.168.100.1	設定不要
	ネットマスク	24ビット	
	DHCP サーバ	192.168.100.1	
	リース IP アドレス	192.168.100.2 - 192.168.100.191	

手順3	PBX1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	発信、着信で使用	設定不要
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
	PBX2 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	発信、着信で使用	設定不要
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX2 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順4	TELI ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TELI ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1	
	即時発信	しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TELI ポートの設定] - [電話機対応機能設定] ボタンを押して、画面下部の「相手番号による即時発信」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	TELI ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順5	TEL2 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	2	
	即時発信	しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [電話機対応機能設定] ボタンを押して、「相手番号による即時発信」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。

TEL2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順 6 VoIP の共通設定			
	VoIP 機能	使用する	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [VoIP の共通設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。  ※ 「設定の確定」 ボタンを押すと本機は自動的に再起動します。
	接続プロバイダ	手順1で設定した「設定名」を選択	
	QoS	QoSを行わない	
	発信時のプレフィックス設定 (ISDN 回線)	99 を付けて	
手順 7 IP 電話サーバの登録			
	IP 電話サーバ (1)		⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [IP 電話サーバの設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。一連の操作を IP 電話サーバの数 (この場合2回) 繰り返す。  ※ 「発信時のプレフィックス」 欄は2つの IP 電話サーバに対して重複しないものをダミーで入力する (例: 22,33)。これらは手順8の段階でコマンドで修正する必要がある。  ※ IP 電話サーバを登録してトップページに戻ったときに、「電話の設定・状態」の「VoIP」欄で IP 電話サーバと通信中であることを確認する。
	sip アドレス	05012345555@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username1(例)	
	パスワード	password1(例)	
	発信時のプレフィックス	22 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012345555	
	IP 電話サーバ (2)		
	sip アドレス	05012346666@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username2(例)	
	パスワード	password2(例)	
	発信時のプレフィックス	33 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012346666	
手順 8 プレフィックスの設定			
	IP 電話サーバ (1)	PBX1 ポートから、なし = 直接	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  no isdn dial prefix sip server=1 prefix="22" no isdn dial prefix sip server=2 prefix="33" isdn dial prefix nt-bri1 sip server=1 isdn dial prefix nt-bri2 sip server=2
	IP 電話サーバ (2)	PBX2 ポートから、なし = 直接	
手順 9 着信動作			
	着信時の着信ベル鳴動モード	順次鳴動させる	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「着信時の着信ベル鳴動モード」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
手順 10 アザーダイヤルトーン			
	アザーダイヤルトーン	出さない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  analog extension other-dial-tone off

手順 11 RTV700 アクセスのためのパスワード			
	パスワード	himitsu( 例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  ※設定後、ブラウザがパスワードを要求する画面を表示したら「ユーザー名」欄には何も入力せず、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力する。

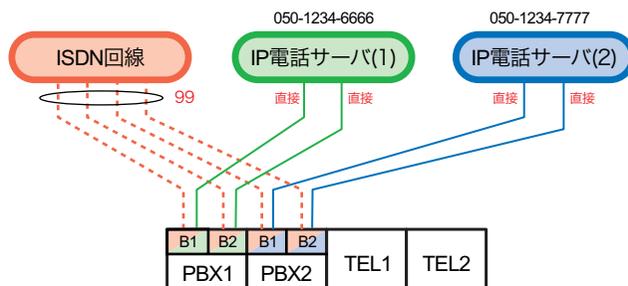
## ○ 2-4 : 設定の詳しい説明

**全体：** ブロードバンド回線の種別に応じたプロバイダの設定を行うことで、RTV700 はインターネットへ接続できるようになります。IP 電話を使用するために RTV700 にはグローバル IP アドレスが割り当てられる必要があります。RTV700 の LAN 側は工場出荷設定ではプライベート IP アドレスなので、インターネット通信を行うためにはアドレス変換が必要になりますが、プロバイダの設定を手順に従って行うことで自動的に必要な設定が行われます。これにより、LAN ポートに接続した PC から Web ページを見たり FTP によるファイルの送受信などができます。

**IP 電話：** IP 電話サービスの契約に基づいた IP 電話サーバの設定が必要になります。なお、IP 電話サーバの設定は上記のプロバイダの設定の後に行う必要があります。例えば、1 契約アカウントで同時 2 発信まで許可される IP 電話サービスを利用する場合は、PBX1 ポートを "IP 電話サーバ 1" に、PBX2 ポートを "IP 電話サーバ 2" に対応させることで VoIP の同時 4 通話が可能になり、IP 電話サービスとの発信信または、IP 電話サービス経由の NTT 回線への電話発信が可能になります。

IP 電話の発信時、PBX 主装置が RTV700 のどのポートを使って発信する場合でも、同一のダイヤル内容で自動的に下記の IP 電話サーバを選択して発信するように設定します。手順 8 では、各ポートのプレフィックスなし (= 直接) における IP 電話サーバを設定し、手順 7 で仮に設定したプレフィックスが実際の発信時の動作に影響を及ぼさないように、設定を修正しています。

ポートと IP 電話サーバの対応：



**プレフィックス設定：** IP 電話と ISDN 回線の発信は、プレフィックスを付けるか付けないかによってどちらかを指定できるようにします。手順 6 では ISDN 回線を使用する場合には "99" をダイヤルしてから電話番号を入力することで ISDN 回線が選択されるようにしています。

着信動作： IP 電話の着信を PBX1 と PBX2 の両方のポートへ向けることで、すべての IP 電話の着信を PBX で受けることができます。着信時のベル鳴動モードを「順次鳴動させる」に設定すると、着信のたびに PBX 主装置の空き回線 1 つだけに着信動作させることができます。

「順次鳴動させる」動作：

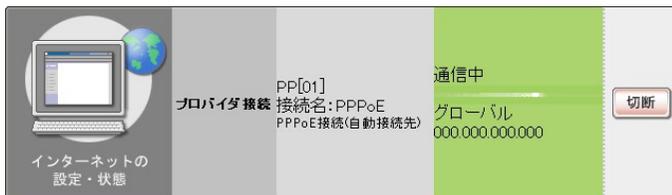
着信ポート ⇒ PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2)

その他： RTV700 と回線との接続はブロードバンド回線 1 本なので、回線側にはデータ系と音声系の通信が混在することになり、データのためのトラフィックが大きくなると、音声データが影響を受けて音声途切れる場合があります。

## ○ 2-5：発着信の動作確認と調整

### □ インターネット回線の接続の確認

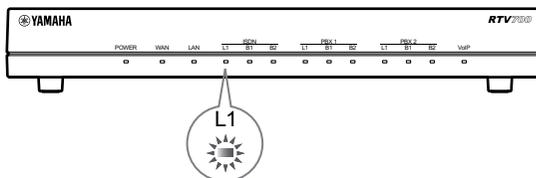
- ① かんたん設定ページの「インターネットの設定・状態」画面が「通信中」表示になり、その下に「グローバル」と表示されることを確認します。  
※表示を最新の状態にするためには、ブラウザの「更新」ボタンを押します。



- ② PC から <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/> 等の Web ページが開けるかを確認します。

### □ ISDN 回線の接続の確認

- ① RTV700 本体前面の ISDN 「L1」 ランプが点灯することを確認します。



### □ IP 電話サーバの接続の確認

- ① かんたん設定ページの「電話の設定・状態」画面の「VoIP」欄で設定した 2 つの IP 電話サーバがすべて「通信中」表示になることを確認します。

	ネットボランチ電話番号 (登録なし)	
	使用状態	未使用
VoIP	(IP電話サーバ1) 815055077■■■■ プレフィックス:22	通信中 <input type="button" value="切断"/>
	(IP電話サーバ2) 815055077■■■■ プレフィックス:33	通信中 <input type="button" value="切断"/>

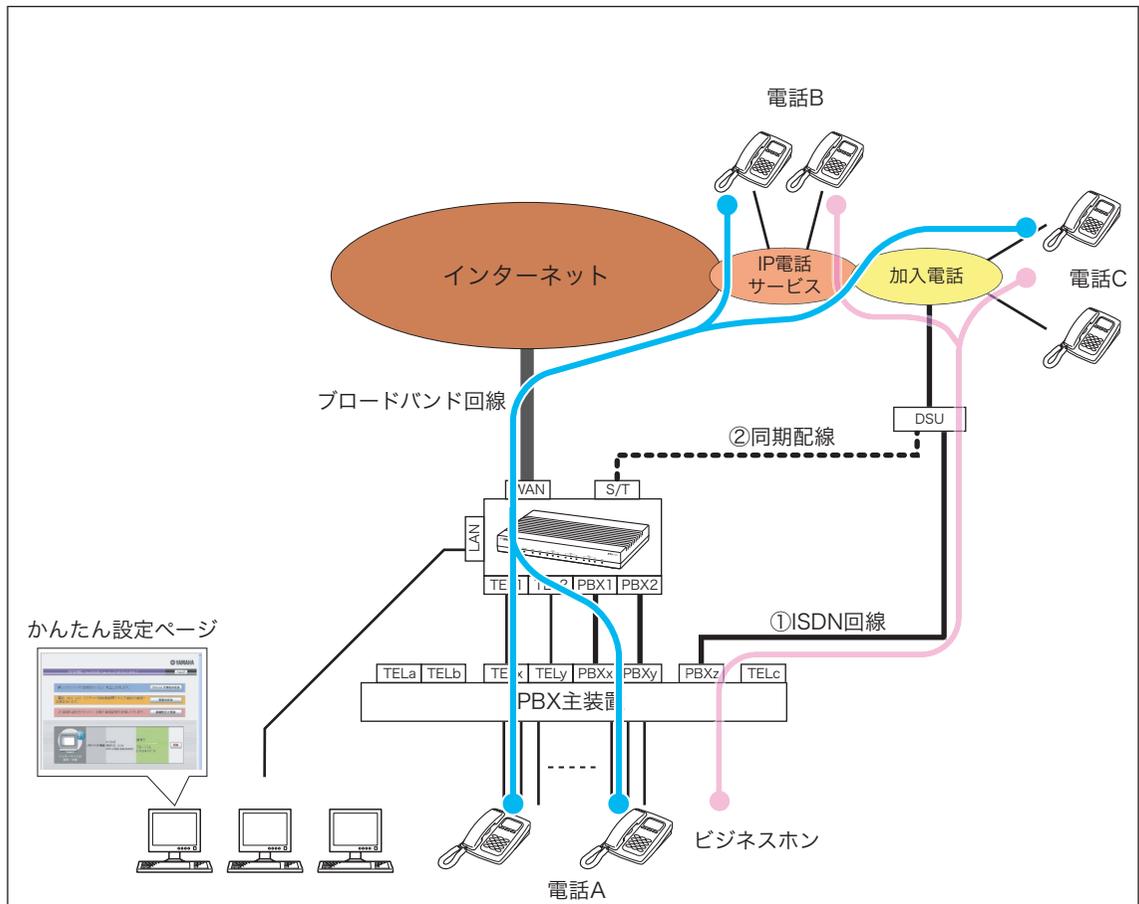
□ビジネスホンから IP 電話サービス経由の発信動作の確認

- ① IP 電話サービスの 2 番号を使って、プレフィックス無しで発信して、同時 4 通話が正常に行えることを確認します。
  
- ②契約した IP 電話サービスが加入電話への接続が可能な場合には、加入電話への発信と着信が正常に行えることを確認します。

□ IP 電話サービスからの着信動作の確認

- ① IP 電話サービスからの着信があるごとに、PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2) の順番に着信動作することを確認します。

### ● 3 : ケース 3 「PBX ポートと TEL ポートを使用し、IP 電話を利用」



#### ○ 3-1 : 設定構成の基本的な条件

- ・ ISP と契約し RTV700 にその設定を行うことで、RTV700 の LAN ポートに接続した PC からインターネットアクセスが可能。RTV700 はグローバル IP アドレスを使用。
- ・ LAN ポートのネットワークは 192.168.100.1/24 のプライベートネットワーク。
- ・ IP 電話サービスと契約し、1 アカウントで 2 通話可能な契約の 3 アカウント (= 6 通話分) を取得し、RTV700 にその設定を行うことで、PBX ポートと TEL ポートから IP 電話を利用可能。
- ・ NTT の PSTN または ISDN 回線を PBX で収容。
- ・ RTV700 の ISDN (U または S/T) ポートには音声通話のための ISDN 回線を接続しない。
- ・ PBX ポートの 4 通話は IP 電話アカウントの 2 つに対応させる。
- ・ TEL ポートの 2 通話は IP 電話アカウントの 1 つに対応させる。
- ・ TEL ポートのアザーダイヤルトーンを通常のダイヤルトーンに変更する。
- ・ IP 電話はプレフィックスを付けずに IP 電話サービス経由で発信する。
- ・ IP 電話サービスからの着信は PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2), TEL1, TEL2 の順番で空きポートに順次着信動作する。
- ・ 設定内容のセキュリティ保護のために、RTV700 本体設定アクセスにパスワードをかける。

## ○ 3-2 : 構成図の説明とポイント

**インターネットアクセス：** RTV700 の「WAN ポート」にブロードバンド回線を接続して、インターネットへ接続できるようにします。ブロードバンド回線は、IP 電話サービスを利用するためにグローバル IP アドレスが割り当てられる契約である必要があります。RTV700 の「LAN ポート」側はプライベート IP アドレスで、インターネット通信を行うための PC が接続されます。いずれかの PC のブラウザを使用して、RTV700 の設定を行います。

**PBX 主装置：** PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートを PBX 主装置と接続します。PBX 主装置下の電話 A は、ブロードバンド回線によりインターネットを経由して IP 電話サービスに接続された電話 B、及びその先にある加入電話の電話 C と通信します。

**IP 電話：** IP 電話サービスの契約を行います。IP 電話の発信において、PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートを有効に使う場合には、同時に 6 通話が可能です。従って、例えば 1 アカウントで 2 発信が可能なサービスであれば 3 アカウントの契約を行います。

**同期配線：** PBX 主装置が ISDN 回線を収容する場合には、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」とのバス配線が必要になります。またこの時「S/T ポート」で着信を取ってしまわないように、RTV700 側では明示的に ISDN 回線の発着信を禁止する設定にします。

## ○ 3-3 : 必要な設定項目とその手順

下表の左端に示した「手順」の番号順に、「設定手順」で説明された内容の操作を行います。特に手順の 1、7、8、9 番は、この順番に操作を行わないと設定手順に示された内容が画面に現れませんので注意してください。なおこの設定例の場合、IP 電話サービスは、1 契約アカウント番号で 2 発信できることを仮定しています。

	設定項目	設定値	設定手順
手順1	WAN ポートの設定		
	回線種別	PPPoE を用いる端末型 ADSL 接続	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [プロバイダ情報の設定] ボタンを押して、必要な情報を ISP の契約書を確認しながら入力する。  ※トップページに戻ったら「プロバイダ接続」欄で正常に接続されること、グローバル IP アドレスを取得できていることを確認する。
	設定名	OFFICE(例)	
	認証 (ユーザ ID)	abcdefg(例)	
	認証 (接続パスワード)	12345xyz(例)	
	DNS サーバアドレス	133.176.200.1(例) 133.176.200.2(例)	
手順2	ISDN ポートの設定 (S/T ポートを使用する場合)		
	内蔵 DSU の使用	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「本機の ISDN DSU 機能」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ※ 「ISDN LL」 ランプの点灯を確認する。
	ISDN U ポートの極性	任意	
	契約回線番号	空欄	

	LAN ポートの設定		
	IP アドレス	192.168.100.1	設定不要
	ネットマスク	24 ビット	
	DHCP サーバ	192.168.100.1	
	リース IP アドレス	192.168.100.2 - 192.168.100.191	
手順3	PBX1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX1 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順4	PBX2 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX2 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX2 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順5	TELI1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TELI1 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1	
	即時発信	しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TELI1 ポートの設定] - [電話機対応機能設定] ボタンを押して、「相手番号による即時発信」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	TELI1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	

手順6 TEL2 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	2	
	即時発信	しない	
TEL2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順7 VoIP の共通設定			
	VoIP 機能	使用する	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [VoIP の共通設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。  ※ 「発信時のプレフィックス設定」欄はこの段階では設定する必要がない。 ※ 「設定の確定」ボタンを押すと本機は自動的に再起動します。
	接続プロバイダ	手順1で設定した「設定名」を選択	
	QoS	QoS を行わない	
手順8 IP 電話サーバの登録			
	IP 電話サーバ (1)		⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [IP 電話サーバの設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。一連の操作を IP 電話サーバの数 (この場合3回) 繰り返す。  ※ 「発信時のプレフィックス」欄は3つの IP 電話サーバに対して重複しないものをダミーで入力する (例: 22,33,44)。これらは手順9の段階でコマンドで修正する必要がある。  ※ IP 電話サーバを登録してトップページに戻ったときに、「電話の設定・状態」の「VoIP」欄で IP 電話サーバと通信中であることを確認する。
	sip アドレス	05012345555@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username1(例)	
	パスワード	password1(例)	
	発信時のプレフィックス	22 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012345555	
	IP 電話サーバ (2)		
	sip アドレス	05012346666@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username2(例)	
	パスワード	password2(例)	
	発信時のプレフィックス	33 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012346666	
	IP 電話サーバ (3)		
	sip アドレス	05012347777@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username3(例)	
	パスワード	password3(例)	
	発信時のプレフィックス	44 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012347777	

手順9 プレフィックスの設定			
	IP 電話サーバ (1)	TEL1, TEL2 ポートから、なし = 直接	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  no isdn dial prefix sip server=1 prefix="22" no isdn dial prefix sip server=2 prefix="33" no isdn dial prefix sip server=3 prefix="44" isdn dial prefix nt-bri1 sip server=2 isdn dial prefix nt-bri2 sip server=3 no analog extension dial prefix sip server=1 prefix="22" no analog extension dial prefix sip server=2 prefix="33" no analog extension dial prefix sip server=3 prefix="44" analog extension dial prefix port=1 sip server=1 analog extension dial prefix port=2 sip server=1
	IP 電話サーバ (2)	PBX1 ポートから、なし = 直接	
	IP 電話サーバ (3)	PBX2 ポートから、なし = 直接	
手順10 着信動作			
	着信時の着信ベル鳴動モード	順次鳴動させる	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「着信時の着信ベル鳴動モード」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
手順11 アザーダイヤルトーン			
	アザーダイヤルトーン	出さない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  analog extension other-dial-tone off
手順12 RTV700 アクセスのためのパスワード			
	パスワード	himitsu (例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ※設定後、ブラウザがパスワードを要求する画面を表示したら「ユーザー名」欄には何も入力せず、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力する。

### ○ 3-4 : 設定の詳しい説明

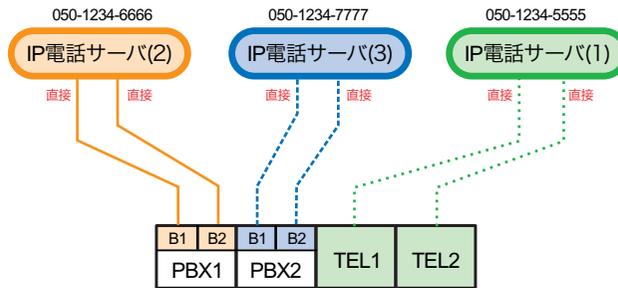
**全体：** ブロードバンド回線の種別に応じたプロバイダの設定を行うことで、RTV700 はインターネットへ接続できるようになります。IP 電話を使用するために RTV700 にはグローバル IP アドレスが割り当てられる必要があります。RTV700 の LAN 側は工場出荷設定ではプライベート IP アドレスなので、インターネット通信を行うためにはアドレス変換が必要になりますが、プロバイダの設定を手順に従って行うことで自動的に必要な設定が行われます。これにより、LAN ポートに接続した PC から Web ページを見たり FTP によるファイルの送受信などができます。

**IP 電話：** IP 電話サービスの契約に基づいた IP 電話サーバの設定が必要になります。なお、IP 電話サーバの設定は上記のプロバイダの設定の後に行う必要があります。例えば、1 契約アカウントで同時 2 発信まで許可される IP 電話サービスを利用する場合は、TEL1 ポートと TEL2 ポートの発信を "IP 電話サーバ 1" に、PBX1 ポートを "IP 電話サーバ 2" に

に、PBX2 ポートを "IP 電話サーバ3" に対応させることで VoIP の同時 6 通話が可能になり、IP 電話サービスとの発着信または、IP 電話サービス経由の NTT 回線への電話発信が可能になります。

IP 電話の発信時、PBX 主装置が RTV700 のどのポートを使って発信する場合でも、同一のダイヤル内容で自動的に下記の IP 電話サーバを選択して発信するように設定します。手順 9 では、各ポートのプレフィックスなし (= 直接) における IP 電話サーバを設定し、手順 8 で仮に設定したプレフィックスが実際の発信時の動作に影響を及ぼさないように、設定を削除しています。

ポートと IP 電話サーバの対応：



**着信動作：** IP 電話の着信を PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートへ向けることで、すべての IP 電話の着信を PBX で受けることができます。着信時のベル鳴動モードを「順次鳴動させる」に設定すると、着信のたびに PBX 主装置の空き回線 1 つだけに着信動作させることができます。

「順次鳴動させる」動作：

着信ポート ⇒ PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2) → TEL1 → TEL2

**同期配線：** なお、PBX ポートと PBX 主装置の間でクロックの同期を取るために、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」をその ISDN 回線に接続する必要があります。従って、その ISDN 回線はバス配線されている必要があります。また、RTV700 が ISDN 回線からの着信を受けてしまわないように、「S/T ポート」での発着信を禁止する設定が必要となります。

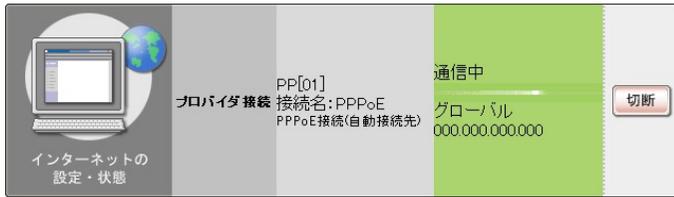
**その他：** RTV700 と回線との接続はブロードバンド回線 1 本なので、回線側にはデータ系と音声系の通信が混在することになり、データのためのトラフィックが大きくなると、音声データが影響を受けて音声途切れる場合があります。

### ○ 3-5 : 発着信の動作確認と調整

□ インターネット回線の接続の確認

- ① かんたん設定ページの「インターネットの設定・状態」画面が「通信中」表示になり、その下に「グローバル」と表示されることを確認します。

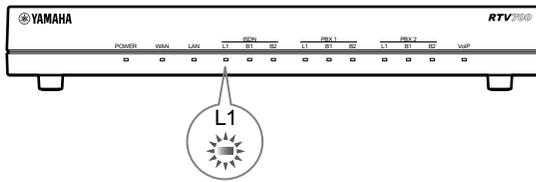
※表示を最新の状態にするためには、ブラウザの「更新」ボタンを押します。



- ② PC から <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/> 等の Web ページが開けるかを確認します。

□同期のための ISDN 回線の接続の確認

- ① RTV700 本体前面の ISDN 「L1」 ランプが点灯することを確認します。



□ IP 電話サーバの接続の確認

- ① かんたん設定ページの「電話の設定・状態」画面の「VoIP」欄で設定した3つの IP 電話サーバがすべて「通信中」表示になることを確認します。

	ネットボランチ電話番号 (登録なし)	
	使用状態	未使用
VoIP	(IP電話サーバ1) 8150550777 プレフィックス:22	通信中 <input type="button" value="切断"/>
	(IP電話サーバ2) 8150550777 プレフィックス:33	通信中 <input type="button" value="切断"/>
	(IP電話サーバ3) 8150550777 プレフィックス:44	通信中 <input type="button" value="切断"/>

□ビジネスホンから IP 電話サービス経由の発信動作の確認

- ① IP 電話サービスの3番号を使って、プレフィックス無しで発信して、同時6通話が正常に行えることを確認します。
- ② 契約した IP 電話サービスが加入電話への接続が可能な場合には、加入電話への発信と着信が正常に行えることを確認します。

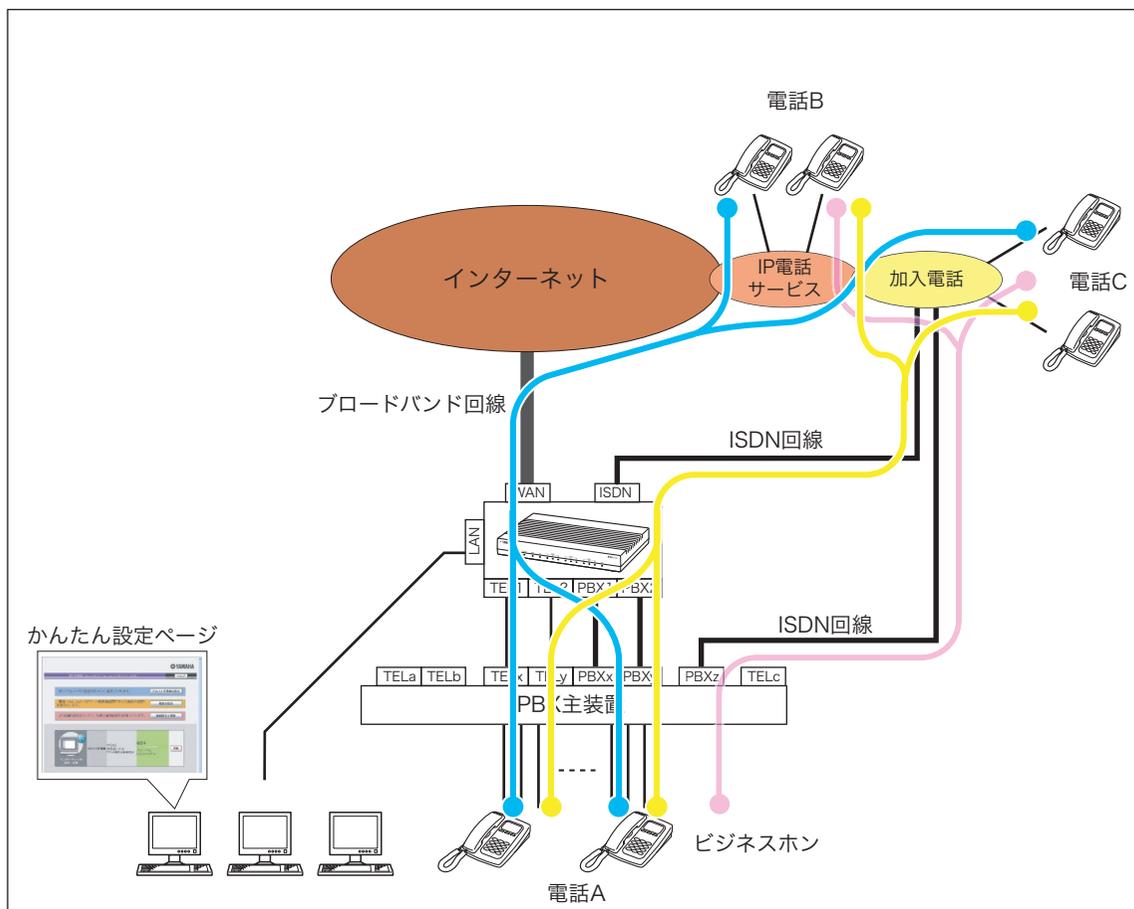
□ IP 電話サービスからの着信動作の確認

- ① IP 電話サービスからの着信があるごとに、PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2), TEL1, TEL2 の順番に着信動作することを確認します。

□ PAD の調整

付録 A-3 「PAD の調整」を参照してください。

## ● 4：ケース4 「PBX ポートと TEL ポートを使用し、ISDN と IP 電話を利用」



### ○ 4-1：設定構成の基本的な条件

- ・ ISP と契約し RTV700 にその設定を行うことで、RTV700 の LAN ポートに接続した PC からインターネットアクセスが可能。RTV700 はグローバル IP アドレスを使用。
- ・ LAN ポートのネットワークは 192.168.100.1/24 のプライベートネットワーク。
- ・ IP 電話サービスと契約し、1 アカウントで 2 通話可能な契約の 3 アカウント (= 6 通話分) を取得し、RTV700 にその設定を行うことで、PBX ポートと TEL ポートから IP 電話を利用可能。
- ・ NTT の PSTN または ISDN 回線を PBX で収容。
- ・ PBX ポートの 4 通話は IP 電話アカウントの 2 つに対応させる。
- ・ TEL ポートの 2 通話は IP 電話アカウントの 1 つに対応させる。
- ・ TEL ポートのアザーダイヤルトーンを通常のダイヤルトーンに変更する。
- ・ プレフィックスを付けると ISDN 回線で発信し、付けないと IP 電話で発信する。
- ・ IP 電話サービスからの着信は PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2), TEL1, TEL2 の順番で空きポートに順次着信動作する。
- ・ 設定内容のセキュリティ保護のために、RTV700 本体設定アクセスにパスワードをかける。

## ○4-2：構成図の説明とポイント

**インターネットアクセス：** RTV700 の「WAN ポート」にブロードバンド回線を接続して、インターネットへ接続できるようにします。ブロードバンド回線は、IP 電話サービスを利用するためにグローバル IP アドレスが割り当てられる契約である必要があります。RTV700 の「LAN ポート」側はプライベート IP アドレスで、インターネット通信を行うための PC が接続されます。いずれかの PC のブラウザを使用して、RTV700 の設定を行います。

**PBX 主装置：** PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートを PBX 主装置と接続します。PBX 主装置下の電話 A は、ブロードバンド回線によりインターネットを経由して IP 電話サービスに接続された電話 B、及びその先にある加入電話の電話 C と通信します。また、ISDN 回線により電話 B、及びその先にある加入電話の電話 C と通信します。インターネット経由か ISDN 回線経由かをプレフィックスで使い分けます。

**IP 電話：** IP 電話サービスの契約を行います。IP 電話の発信において、PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートを有効に使う場合には、同時に 6 通話が可能です。従って、例えば 1 アカウントで 2 発信が可能なサービスであれば 3 アカウントの契約を行います。

**同期配線：** PBX 主装置が ISDN 回線を収容する場合には、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」とのバス配線が必要になります。またこの時「S/T ポート」で着信を取ってしまわないように、RTV700 側では明示的に ISDN 回線の発着信を禁止する設定にします。

## ○4-3：必要な設定項目とその手順

下表の左端に示した「手順」の番号順に、「設定手順」で説明された内容の操作を行います。特に手順の 1、7、8、9 番は、この順番に操作を行わないと設定手順に示された内容が画面に現れませんので注意してください。なおこの設定例の場合、IP 電話サービスは、1 契約アカウント番号で 2 発信できることを仮定しています。

	設定項目	設定値	設定手順
手順1	WAN ポートの設定		
	回線種別	PPPoE を用いる端末型 ADSL 接続	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [プロバイダ情報の設定] ボタンを押して、必要な情報を ISP の契約書を確認しながら入力する。  ※トップページに戻ったら「プロバイダ接続」欄で正常に接続されること、グローバル IP アドレスを取得できていることを確認する。
	設定名	OFFICE(例)	
	認証 (ユーザ ID)	abcdefg(例)	
	認証 (接続パスワード)	12345xyz(例)	
	DNS サーバアドレス	133.176.200.1(例) 133.176.200.2(例)	
手順2	ISDN ポートの設定 (S/T ポートを使用する場合)		
	内蔵 DSU の使用	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「本機の ISDN DSU 機能」を変更し、「設定の確定」ボタンを押す。  ※ 「ISDN LI」ランプの点灯を確認する。
	ISDN U ポートの極性	任意	
	契約回線番号	空欄	

	LAN ポートの設定		
	IP アドレス	192.168.100.1	設定不要
	ネットマスク	24 ビット	
	DHCP サーバ	192.168.100.1	
	リース IP アドレス	192.168.100.2 - 192.168.100.191	
手順3	PBX1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX1 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順4	PBX2 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX2 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX2 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順5	TELI1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TELI1 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1	
	即時発信	しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TELI1 ポートの設定] - [電話機対応機能設定] ボタンを押して、「相手番号による即時発信」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	TELI1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	

手順6 TEL2 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	2	
	即時発信	しない	
TEL2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順7 VoIP の共通設定			
	VoIP 機能	使用する	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [VoIP の共通設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。  ※ 「設定の確定」 ボタンを押すと本機は自動的に再起動します。
	接続プロバイダ	手順1で設定した「設定名」を選択	
	QoS	QoSを行わない	
	発信時のプレフィックス設定 (ISDN 回線)	99 を付けて	
手順8 IP 電話サーバの登録			
	IP 電話サーバ (1)		⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [IP 電話サーバの設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。一連の操作を IP 電話サーバの数 (この場合3回) 繰り返す。  ※ 「発信時のプレフィックス」 欄は3つの IP 電話サーバに対して重複しないものをダミーで入力する (例: 22,33,44)。これらは手順9の段階でコマンドで修正する必要がある。  ※ IP 電話サーバを登録してトップページに戻ったときに、「電話の設定・状態」の「VoIP」欄で IP 電話サーバと通信中であることを確認する。
	sip アドレス	05012345555@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username1(例)	
	パスワード	password1(例)	
	発信時のプレフィックス	22 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012345555	
	IP 電話サーバ (2)		
	sip アドレス	05012346666@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username2(例)	
	パスワード	password2(例)	
	発信時のプレフィックス	33 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012346666	
	IP 電話サーバ (3)		
	sip アドレス	05012347777@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username3(例)	
	パスワード	password3(例)	
	発信時のプレフィックス	44 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012347777	

手順9 プレフィックスの設定			
	IP 電話サーバ (1)	TEL1, TEL2 ポートから、なし = 直接	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  no isdn dial prefix sip server=1 prefix="22" no isdn dial prefix sip server=2 prefix="33" no isdn dial prefix sip server=3 prefix="44" isdn dial prefix nt-bri1 sip server=2 isdn dial prefix nt-bri2 sip server=3 no analog extension dial prefix sip server=1 prefix="22" no analog extension dial prefix sip server=2 prefix="33" no analog extension dial prefix sip server=3 prefix="44" analog extension dial prefix port=1 sip server=1 analog extension dial prefix port=2 sip server=1
	IP 電話サーバ (2)	PBX1 ポートから、なし = 直接	
	IP 電話サーバ (3)	PBX2 ポートから、なし = 直接	
手順10 着信動作			
	着信時の着信ベル鳴動モード	順次鳴動させる	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「着信時の着信ベル鳴動モード」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
手順11 アザーダイヤルトーン			
	アザーダイヤルトーン	出さない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  analog extension other-dial-tone off
手順12 RTV700 アクセスのためのパスワード			
	パスワード	himitsu (例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ※設定後、ブラウザがパスワードを要求する画面を表示したら「ユーザー名」欄には何も入力せず、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力する。

#### ○4-4：設定の詳しい説明

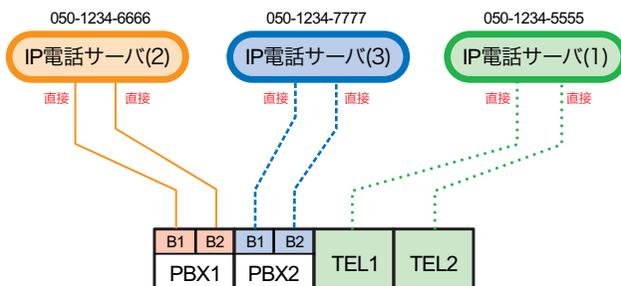
**全体：** ブロードバンド回線の種別に応じたプロバイダの設定を行うことで、RTV700 はインターネットへ接続できるようになります。IP 電話を使用するために RTV700 にはグローバル IP アドレスが割り当てられる必要があります。RTV700 の LAN 側は工場出荷設定ではプライベート IP アドレスなので、インターネット通信を行うためにはアドレス変換が必要になりますが、プロバイダの設定を手順に従って行うことで自動的に必要な設定が行われます。これにより、LAN ポートに接続した PC から Web ページを見たり FTP によるファイルの送受信などができます。

**IP 電話：** IP 電話サービスの契約に基づいた IP 電話サーバの設定が必要になります。なお、IP 電話サーバの設定は上記のプロバイダの設定の後に行う必要があります。例えば、1 契約アカウントで同時 2 発信まで許可される IP 電話サービスを利用する場合は、TEL1 ポートと TEL2 ポートの発信を "IP 電話サーバ 1" に、PBX1 ポートを "IP 電話サーバ 2" に、PBX2 ポートを "IP 電話サーバ 3" に対応させることで VoIP の同時 6 通話が可能になり、

IP 電話サービスとの発着信または、IP 電話サービス経由の NTT 回線への電話発信が可能になります。

IP 電話の発信時、PBX 主装置が RTV700 のどのポートを使って発信する場合でも、同一のダイヤル内容で自動的に下記の IP 電話サーバを選択して発信するように設定します。手順 9 では、各ポートのプレフィックスなし (= 直接) における IP 電話サーバを設定し、手順 8 で仮に設定したプレフィックスが実際の発信時の動作に影響を及ぼさないように、設定を修正しています。

ポートと IP 電話サーバの対応：



**プレフィックス設定：** IP 電話と ISDN 回線の発信は、プレフィックスを付けるか付けないかによってどちらかを指定できるようにします。手順 6 では ISDN 回線を使用する場合には "99" をダイヤルしてから電話番号を入力することで ISDN 回線が選択されるようにしています。

IP 電話の着信を PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートへ向けることで、すべての IP 電話の着信を PBX で受けることができます。着信時のベル鳴動モードを「順次鳴動させる」に設定すると、着信のたびに PBX 主装置の空き回線 1 つだけに着信動作させることができます。

「順次鳴動させる」動作：

着信ポート ⇒ PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2) → TEL1 → TEL2

なお、PBX ポートと PBX 主装置の間でクロックの同期を取るために、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」をその ISDN 回線に接続する必要があります。従って、その ISDN 回線はバス配線されている必要があります。また、RTV700 が ISDN 回線からの着信を受けてしまわないように、「S/T ポート」での発着信を禁止する設定が必要となります。

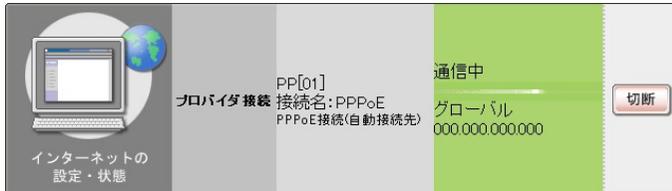
RTV700 と回線との接続はブロードバンド回線 1 本なので、回線側にはデータ系と音声系の通信が混在することになり、データのためのトラフィックが大きくなると、音声データが影響を受けて音声途切れる場合があります。

## ○4-5：発着信の動作確認と調整

### □インターネット回線の接続の確認

- ①かんたん設定ページの「インターネットの設定・状態」画面が「通信中」表示になり、その下に「グローバル」と表示されることを確認します。

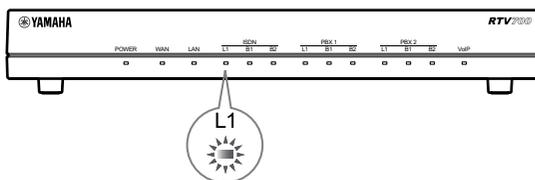
※表示を最新の状態にするためには、ブラウザの「更新」ボタンを押します。



- ② PC から <http://www.rtpo.yamaha.co.jp/> 等の Web ページが開けるかを確認します。

### □同期のための ISDN 回線の接続の確認

- ① RTV700 本体前面の ISDN 「L1」 ランプが点灯することを確認します。



### □IP 電話サーバの接続の確認

- ①かんたん設定ページの「電話の設定・状態」画面の「VoIP」欄で設定した3つの IP 電話サーバがすべて「通信中」表示になることを確認します。

VoIP	ネットボランチ電話番号 (登録なし)		
	使用状態	未使用	
	(IP電話サーバ1) 815055077 プレフィックス:22	通信中	切断
	(IP電話サーバ2) 815055077 プレフィックス:33	通信中	切断
	(IP電話サーバ3) 815055077 プレフィックス:44	通信中	切断

### □ビジネスホンから IP 電話サービス経由の発信動作の確認

- ① IP 電話サービスの3番号を使って、プレフィックス無しで発信して、同時6通話が正常に行えることを確認します。

- ②契約した IP 電話サービスが加入電話への接続が可能な場合には、加入電話への発信と着信が正常に行えることを確認します。

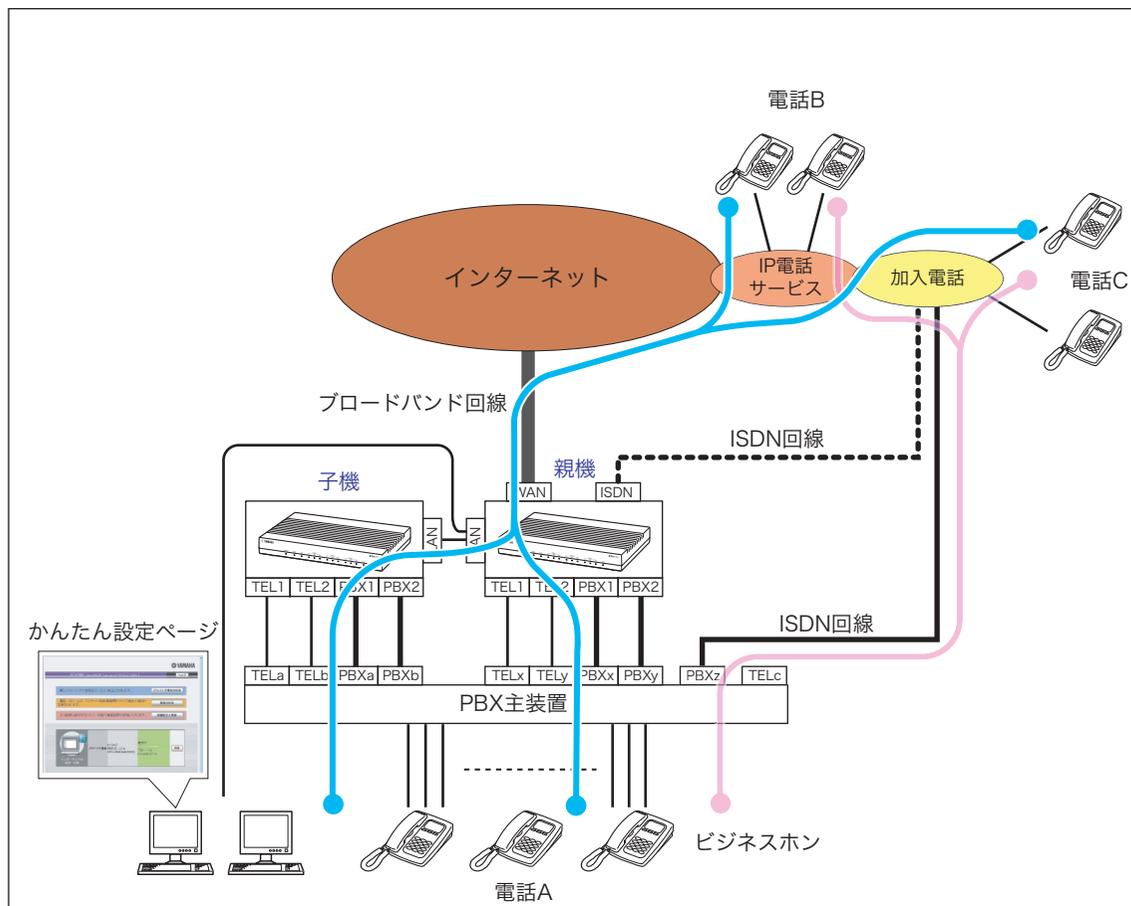
IP 電話サービスからの着信動作の確認

- ① IP 電話サービスからの着信があるごとに、PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2), TEL1, TEL2 の順番に着信動作することを確認します。

PAD の調整

付録 A-3 「PAD の調整」を参照してください。

## ● 5: ケース5 「ブロードバンド回線に接続し、カスケード接続で IP 電話の 12 通話を利用」



### ○ 5-1 : 設定構成の基本的な条件

- ・ RTV700 2 台をカスケード接続する。
- ・ ISP と契約し RTV700 (親機) にその設定を行うことで、RTV700 親機または子機の LAN ポートに接続した PC からインターネットアクセスが可能。RTV700 (親機) はグローバル IP アドレスを使用。
- ・ LAN ポートのネットワークは 192.168.100.1/24 のプライベートネットワーク。
- ・ IP 電話サービスと契約し、1 アカウントで 2 通話可能な契約の 6 アカウント (= 12 通話分) を取得し、RTV700 (親機) にその設定を行うことで、親機または子機の PBX ポートと TEL ポートから IP 電話を利用可能。
- ・ NTT の PSTN または ISDN 回線を PBX で収容。
- ・ RTV700 の ISDN(U または S/T ポート) には音声通話のための ISDN 回線を接続しない。
- ・ TEL ポートのアザーダイヤルトーンを通常のダイヤルトーンに変更する。
- ・ IP 電話はプレフィックスを付けずに IP 電話サービス経由で発信する。
- ・ IP 電話サービスからの着信は RTV700 (親機) の PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2), 同じく RTV700 子機の PBX ポート、親機の TEL1, TEL2、子機の TEL1, TEL2 の順番で空きポートに順次着信動作する。
- ・ 設定内容のセキュリティ保護のために、RTV700 本体設定アクセスにパスワードをかける。

## ○5-2：構成図の説明とポイント

**カスケード接続：** RTV700 2台のLANポート同士をLANケーブルで接続します。ブロードバンド回線を収容するRTV700が親機になり、子機の通話のすべてを制御します。親機と子機はIPアドレスが重複しないように子機側を工場出荷設定から変更する必要があります（192.168.100.192-192.168.100.254の範囲）。

IPアドレス	割り当て
192.168.100.0	ネットワークアドレス（規格として予約済み）
192.168.100.1	RTV700（親機）のLANポート
192.168.100.2 ～ 192.168.100.191	RTV700（親機）がDHCPサーバとしてPC等に自動割り当てするIPアドレス
192.168.100.192 ～ 192.168.100.253	未割り当て
192.168.100.254	RTV700（子機）のLANポート
192.168.100.255	ブロードキャストアドレス（規格として予約済み）

**インターネットアクセス：** RTV700（親機）の「WANポート」にブロードバンド回線を接続して、インターネットへ接続できるようにします。ブロードバンド回線は、IP電話サービスを利用するためにグローバルIPアドレスが割り当てられる契約である必要があります。RTV700の「LANポート」側はプライベートIPアドレスで、インターネット通信を行うためのPCが接続されます。いずれかのPCのブラウザを使用して、RTV700の設定を行います。

**PBX主装置：** 親機・子機のPBX1, PBX2, TEL1, TEL2のすべてのポートをPBX主装置と接続します。PBX主装置下の電話Aは、ブロードバンド回線によりインターネットを経由してIP電話サービスに接続された電話B、及びその先にある加入電話の電話Cと通信します。

**IP電話：** IP電話サービスの契約を行います。IP電話の発信において、親機・子機のPBX1, PBX2, TEL1, TEL2のすべてのポートを有効に使う場合には、同時に12通話が可能です。従って、例えば1アカウントで2発信が可能なサービスであれば6アカウントの契約を行います。

**同期配線：** PBX主装置がISDN回線を収容する場合には、RTV700のISDN「S/Tポート」とのバス配線が必要になります。またこの時「S/Tポート」で着信を取ってしまわないように、RTV700（親機）側では明示的にISDN回線の発着信を禁止する設定にします。

## ○5-3：必要な設定項目とその手順

カスケード子機→親機の順番で設定します。下表の左端に示した「手順」の番号順に、「設定手順」で説明された内容の操作を行います。

● RTV700（子機）の設定手順

	設定項目	設定値	設定手順
手順1	LAN ポートの設定		
	IP アドレス	192.168.100.254	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [LAN の設定] ボタンを押して、設定を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ※ 「実行」 ボタンを押した後、「新しい IP アドレスに http でアクセスする」 をクリックしてアクセスし直す。
	ネットマスク	24 ビット	
	DHCP サーバ機能を使用する	チェックを外す	
手順2	PBX1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX1 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順3	PBX2 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX2 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
	PBX2 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順4	TEL1 ポートの設定 (ISDN 電話)		
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL1 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL1 ポートの設定] - [電話機対応機能設定] ボタンを押して、「相手番号による即時発信」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1	
	即時発信	しない	
	TEL1 ポートの設定 (VoIP 機能)		
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	

手順 5 TEL2 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	2	
	即時発信	しない	
TEL2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順 6 カスケード接続 (子機) の設定			
	切替	アナログ子機	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [カスケード接続の設定] ボタンを押して、アナログ子機に切り替えて「設定の確定」ボタンを押す。
手順 7 プレフィックスの設定			
	IP 電話サーバ (4)	子機の TEL1, TEL2 ポートから、なし = 直接	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  isdn dial prefix nt-bri1 sip server=5 isdn dial prefix nt-bri2 sip server=6 analog extension dial prefix port=1 sip server=4 analog extension dial prefix port=2 sip server=4
	IP 電話サーバ (5)	子機の PBX1 ポートから、なし = 直接	
	IP 電話サーバ (6)	子機の PBX2 ポートから、なし = 直接	
着信動作			
	着信時の着信ベル鳴動モード		設定不要 (親機の設定に従って動作するため)
手順 8 アザーダイヤルトーン			
	アザーダイヤルトーン	出さない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  analog extension other-dial-tone off
手順 9 RTV700 アクセスのためのパスワード			
	パスワード	himitsu(例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  ※設定後、ブラウザがパスワードを要求する画面を表示したら「ユーザー名」欄には何も入力せず、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力する。

● RTV700（親機）の設定手順

下表の左端に示した「手順」の番号順に、「設定手順」で説明された内容の操作を行います。特に手順の1、7、8、9番は、この順番に操作を行わないと設定手順に示された内容が画面に現れませんので注意してください。なおこの設定例の場合、IP電話サービスは、1契約アカウント番号で2発信できることを仮定しています。

設定項目	設定値	設定手順
<b>手順1 WANポートの設定</b>		
回線種別	PPPoEを用いる端末型 ADSL 接続	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [プロバイダ情報の設定] ボタンを押して、必要な情報を ISP の契約書を確認しながら入力する。 ※トップページに戻ったら「プロバイダ接続」欄で正常に接続されること、グローバル IP アドレスを取得できていることを確認する。
設定名	OFFICE(例)	
認証 (ユーザ ID)	abcdefg(例)	
認証 (接続パスワード)	12345xyz(例)	
DNS サーバアドレス	133.176.200.1(例) 133.176.200.2(例)	
<b>手順2 ISDNポートの設定 (S/Tポートを使用する場合)</b>		
内蔵 DSU の使用	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「本機の ISDN DSU 機能」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。 ※ 「ISDN LI」 ランプの点灯を確認する。
ISDN Uポートの極性	任意	
契約回線番号	空欄	
<b>LANポートの設定</b>		
IP アドレス	192.168.100.1	設定不要
ネットマスク	24ビット	
DHCP サーバ	192.168.100.1	
リース IP アドレス	192.168.100.2 - 192.168.100.191	
<b>手順3 PBX1ポートの設定 (ISDN電話)</b>		
使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN電話の設定] - [PBX1ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
回線番号1	空欄	
回線番号2	空欄	
着信ポート優先順位	普通	
着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
<b>PBX1ポートの設定 (VoIP機能)</b>		
VoIP 機能	使用する	設定不要
電話ユーザ名	rtv700	
電話ディスプレイ名	空欄	
着信許可	すべて許可	
<b>手順4 PBX2ポートの設定 (ISDN電話)</b>		
使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN電話の設定] - [PBX2ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
回線番号1	空欄	
回線番号2	空欄	
着信ポート優先順位	普通	
着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
<b>PBX2ポートの設定 (VoIP機能)</b>		
VoIP 機能	使用する	設定不要
電話ユーザ名	rtv700	
電話ディスプレイ名	空欄	
着信許可	すべて許可	

手順5 TEL1 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL1 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1	
	即時発信	しない	
TEL1 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順6 TEL2 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	2	
	即時発信	しない	
TEL2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順7 VoIP の共通設定			
	VoIP 機能	使用する	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [VoIP の共通設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。  ※ 「発信時のプレフィックス設定」欄はこの段階では設定する必要がない。 ※ 「設定の確定」ボタンを押すと本機は自動的に再起動します。
	接続プロバイダ	手順1で設定した「設定名」を選択	
	QoS	QoSを行わない	
手順8 カスケード接続 (親機) の設定			
	切替	アナログ親機	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [カスケード接続の設定] ボタンを押して、アナログ親機に切り替えて「設定の確定」ボタンを押す。  ※その後、「戻る」ボタンを押して、引き続き次の設定を行う。
	機器番号	自動で割り当てる	「機器番号を自動で割り当てる」にチェックボックスを付けて、「設定の確定」ボタンを押す。

手順 9 IP 電話サーバの登録			
	IP 電話サーバ (1)		⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIPの設定] - [IP 電話サーバの設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。一連の操作を IP 電話サーバの数 (この場合 6 回) 繰り返す。  ※ 「発信時のプレフィックス」欄は 6 つの IP 電話サーバに対して重複しないものをダミーで入力する (例: 22,33,44,55,66,77)。これらは手順 10 の段階でコマンドで修正する必要がある。  ※ IP 電話サーバを登録してトップページに戻ったときに、「電話の設定・状態」の「VoIP」欄で IP 電話サーバと通信中であることを確認する。
	sip アドレス	05012345555@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username1(例)	
	パスワード	password1(例)	
	発信時のプレフィックス	22 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012345555	
	IP 電話サーバ (2)		
	sip アドレス	05012346666@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username2(例)	
	パスワード	password2(例)	
	発信時のプレフィックス	33 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012346666	
	IP 電話サーバ (3)		
	sip アドレス	05012347777@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
	ユーザ ID	username3(例)	
	パスワード	password3(例)	
	発信時のプレフィックス	44 を付けて	
	電話ディスプレイ名	05012347777	
	IP 電話サーバ (4)		
	sip アドレス	05012348888@yamaha.co.jp(例)	
	サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)	
	sip-session-timer	チェックを外す	
ユーザ ID	username4(例)		
パスワード	password4(例)		
発信時のプレフィックス	55 を付けて		
電話ディスプレイ名	05012348888		
IP 電話サーバ (5)			
sip アドレス	05012349999@yamaha.co.jp(例)		
サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)		
sip-session-timer	チェックを外す		
ユーザ ID	username5(例)		
パスワード	password5(例)		
発信時のプレフィックス	66 を付けて		
電話ディスプレイ名	05012349999		
IP 電話サーバ (6)			
sip アドレス	05012340000@yamaha.co.jp(例)		
サーバアドレス	voip.ymh.co.jp(例)		
sip-session-timer	チェックを外す		
ユーザ ID	username6(例)		
パスワード	password6(例)		
発信時のプレフィックス	77 を付けて		
電話ディスプレイ名	05012340000		

手順 10 プレフィックスの設定		
IP 電話サーバ (1)	親機の TEL1, TEL2 ポートから、なし = 直接	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  no isdn dial prefix sip server=1 prefix="22" no isdn dial prefix sip server=2 prefix="33" no isdn dial prefix sip server=3 prefix="44" no isdn dial prefix sip server=4 prefix="55" no isdn dial prefix sip server=5 prefix="66" no isdn dial prefix sip server=6 prefix="77" isdn dial prefix nt-bri1 sip server=2 isdn dial prefix nt-bri2 sip server=3 no analog extension dial prefix sip server=1 prefix="22" no analog extension dial prefix sip server=2 prefix="33" no analog extension dial prefix sip server=3 prefix="44" analog extension dial prefix port=1 sip server=1 analog extension dial prefix port=2 sip server=1
IP 電話サーバ (2)	親機の PBX1 ポートから、なし = 直接	
IP 電話サーバ (3)	親機の PBX2 ポートから、なし = 直接	
IP 電話サーバ (4)	子機の TEL1, TEL2 ポートから、なし = 直接	
IP 電話サーバ (5)	子機の PBX1 ポートから、なし = 直接	
IP 電話サーバ (6)	子機の PBX2 ポートから、なし = 直接	
手順 11 着信動作		
着信時の着信ベル鳴動モード	順次鳴動させる	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「着信時の着信ベル鳴動モード」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
手順 12 アザーダイヤルトーン		
アザーダイヤルトーン	出さない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  analog extension other-dial-tone off
手順 13 RTV700 アクセスのためのパスワード		
パスワード	himitsu (例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ※設定後、ブラウザがパスワードを要求する画面を表示したら「ユーザー名」欄には何も入力せず、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力する。

## ○5-4：設定の詳しい説明

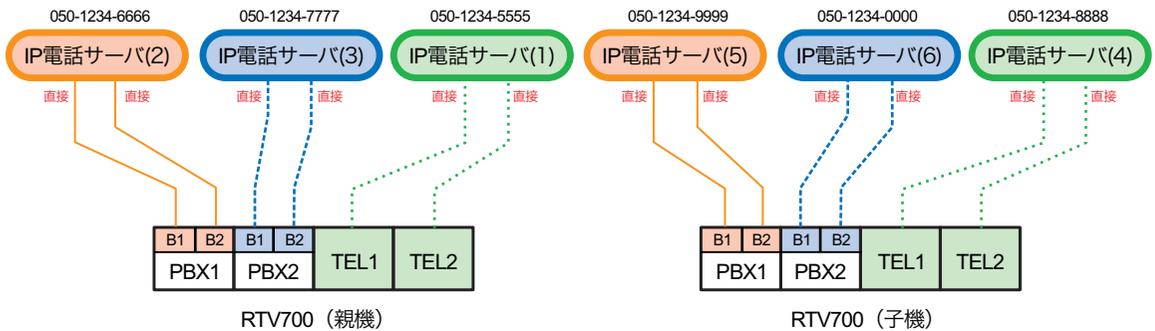
**全体：** ブロードバンド回線の種別に応じたプロバイダの設定を行うことで、RTV700 (親機) はインターネットへ接続できるようになります。IP 電話を使用するために RTV700 (親機) にはグローバル IP アドレスが割り当てられる必要があります。RTV700 (親機) の LAN 側は工場出荷設定ではプライベート IP アドレスなので、インターネット通信を行うためにはアドレス変換が必要になりますが、プロバイダの設定を手順に従って行うことで自動的に必要な設定が行われます。これにより、親機または子機の LAN ポートに接続した PC から Web ページを見たり FTP によるファイルの送受信などができます。

**IP 電話：** IP 電話を使うためには、IP 電話サービスの契約に基づいた IP 電話サーバの設定が必要になります。なお、IP 電話サーバの設定は上記のプロバイダの設定の後に行う必要があります。例えば、1 契約アカウントで同時 2 発信まで許可される IP 電話サービ

スを利用する場合は、親機の TEL1 ポートと TEL2 ポートの発信を "IP 電話サーバ 1" に、親機の PBX1 ポートを "IP 電話サーバ 2" に、親機の PBX2 ポートを "IP 電話サーバ 3" に、子機の TEL1 ポートと TEL2 ポートの発信を "IP 電話サーバ 4" に、子機の PBX1 ポートを "IP 電話サーバ 5" に、子機の PBX2 ポートを "IP 電話サーバ 6" に対応させることで VoIP の同時 1 2 通話が可能になり、IP 電話サービスとの発信または、IP 電話サービス経由の NTT 回線への電話発信が可能になります。

IP 電話の発信時、PBX 主装置が RTV700 のどのポートを使って発信する場合でも、同一のダイヤル内容で自動的に下記の IP 電話サーバを選択して発信するように設定します。親機の手順 10 では、各ポートのプレフィックスなし (= 直接) における IP 電話サーバを設定し、手順 9 で仮に設定したプレフィックスが実際の発信時の動作に影響を及ぼさないように、設定を削除しています。

ポートと IP 電話サーバの対応：



**着信動作：** IP 電話の着信を PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートへ向けることで、すべての IP 電話の着信を PBX で受けることができます。着信時のベル鳴動モードを「順次鳴動させる」に設定すると、着信のたびに PBX 主装置の空き回線 1 つだけに着信動作させることができます。

「順次鳴動させる」動作：

着信ポート ⇒ RTV700 (親機)：PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2) →  
 RTV700 (子機)：PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2) →  
 RTV700 (親機)：TEL1 → TEL2 →  
 RTV700 (子機)：TEL1 → TEL2

**同期配線：** なお、PBX ポートと PBX 主装置の間でクロックの同期を取るために、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」をその ISDN 回線に接続する必要があります。従って、その ISDN 回線はバス配線されている必要があります。また、RTV700 が ISDN 回線からの着信を受けてしまわないように、「S/T ポート」での発信を禁止する設定が必要となります。

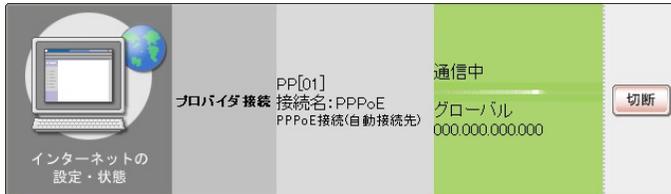
**その他：** RTV700 と回線との接続はブロードバンド回線 1 本なので、回線側にはデータ系と音声系の通信が混在することになり、データのためのトラフィックが大きくなると、音声データが影響を受けて音声途切れる場合があります。

## ○5-5：発着信の動作確認と調整

### □インターネット回線の接続の確認

- ①かんたん設定ページの「インターネットの設定・状態」画面が「通信中」表示になり、その下に「グローバル」と表示されることを確認します。

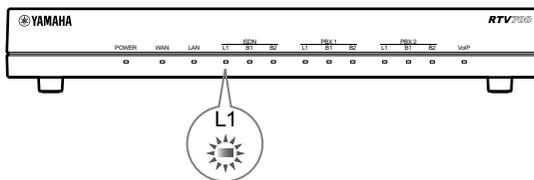
※表示を最新の状態にするためには、ブラウザの「更新」ボタンを押します。



- ② PC から <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/> 等の Web ページが開けるかを確認します。

### □同期のための ISDN 回線の接続の確認

- ① RTV700 親機の ISDN 「L1」ランプが点灯することを確認します（子機は ISDN 回線を接続しないので点灯しません）。



### □IP 電話サーバの接続の確認

- ① RTV700 親機のかんたん設定ページの「電話の設定・状態」画面の「VoIP」欄で設定した6つのIP 電話サーバがすべて「通信中」表示になることを確認します。

ネットボランチ電話番号	424616		
使用状態	2004/06/28 11:39:01	切断	00:02:49
(IP電話サー) 1)	81 5055054	通信中	切断
プレフィックス:	未設定		
(IP電話サー) 2)	81 5055054	通信中	切断
プレフィックス:	未設定		
(IP電話サー) 3)	81 5055054	通信中	切断
プレフィックス:	未設定		
(IP電話サー) 4)	81 5055054	通信中	切断
プレフィックス:	未設定		
(IP電話サー) 5)	81 5055054	通信中	切断
プレフィックス:	未設定		
(IP電話サー) 6)	81 5055054	通信中	切断
プレフィックス:	未設定		

□ビジネスホンから IP 電話サービス経由の発信動作の確認

- ① IP 電話サービスの 6 番号を使って、プレフィックス無しで発信して、同時 1 2 通話が正常に行えることを確認します。
- ② 契約した IP 電話サービスが加入電話への接続が可能な場合には、加入電話への発信と着信が正常に行えることを確認します。

□ IP 電話サービスからの着信動作の確認

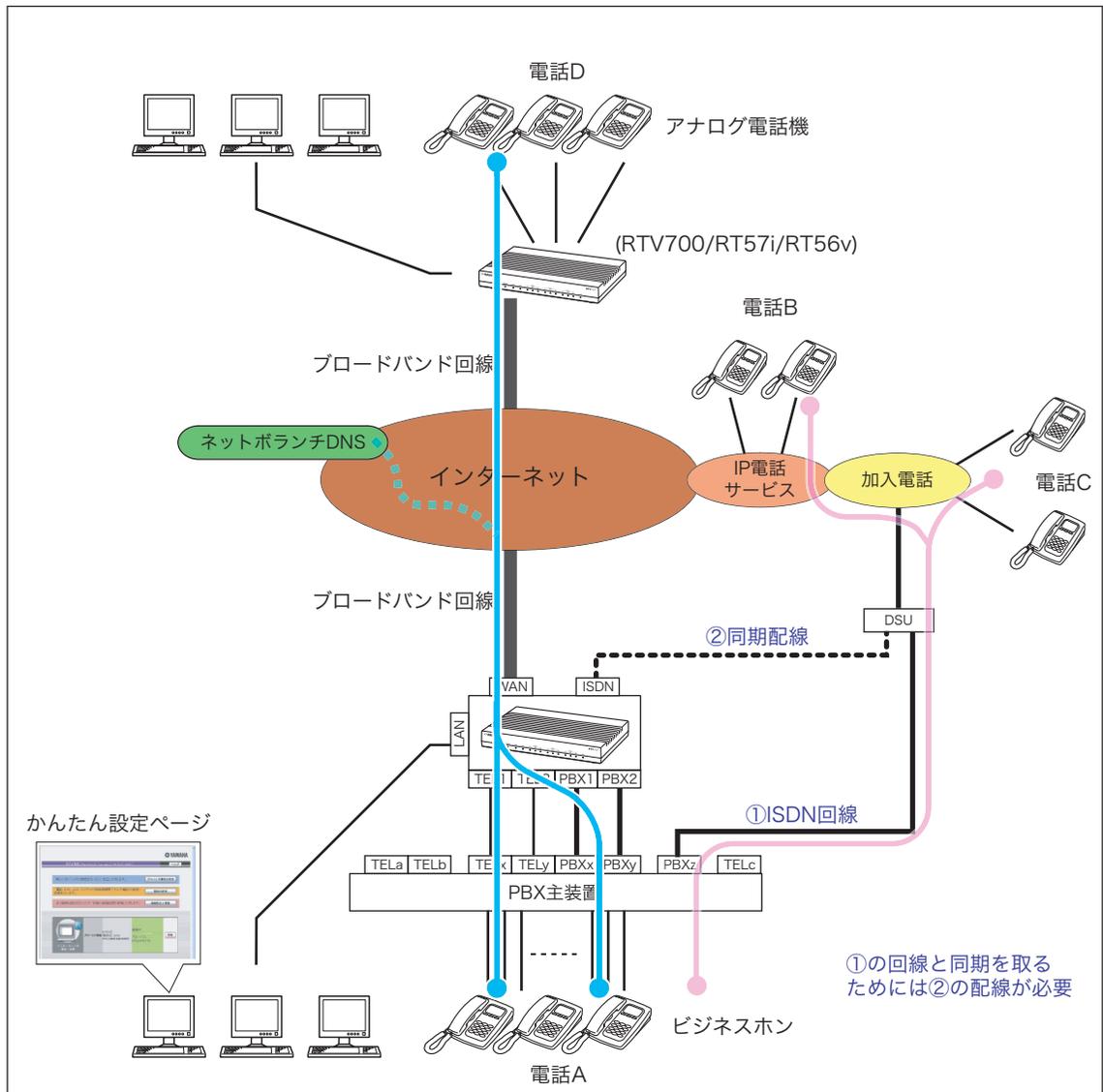
- ① IP 電話サービスからの着信があるごとに、次のような順番に着信動作することを確認します。

着信ポート ⇒ RTV700 (親機) : PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2) →  
RTV700 (子機) : PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2) →  
RTV700 (親機) : TEL1 → TEL2 →  
RTV700 (子機) : TEL1 → TEL2

□ PAD の調整

付録 A-3 「PAD の調整」を参照してください。

## ● 6：ケース 6 「ブロードバンド回線に接続し、NetVolante インターネット電話を利用」



### ○ 6-1：設定構成の基本的な条件

- ・ ISP と契約し RTV700 にその設定を行うことで、RTV700 の LAN ポートに接続した PC からインターネットアクセスが可能。RTV700 はグローバル IP アドレスを使用。
- ・ LAN ポートのネットワークは 192.168.100.1/24 のプライベートネットワーク。
- ・ ネットボランチ DNS サービスを利用し、NetVolante インターネット電話番号を取得して、PBX ポートと TEL ポートから NetVolante インターネット電話を利用可能。
- ・ RTV700 の ISDN (U または S/T) ポートには音声通話のための ISDN 回線を接続しない。
- ・ PBX ポートの 4 通話は NetVolante インターネット電話に対応させる。
- ・ TEL ポートの 2 通話は NetVolante インターネット電話に対応させる。
- ・ TEL ポートのアザーダイヤルトーンを通常のダイヤルトーンに変更する。
- ・ NetVolante インターネット電話はプレフィックスを付けずにネットボランチ DNS サー

バ経由で発信する。

- ・ NetVolante インターネット電話からの着信は PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2), TEL1, TEL2 の順番で空きポートに順次着信動作する。
- ・ 設定内容のセキュリティ保護のために、RTV700 本体設定アクセスにパスワードをかける。

## ○ 6-2 : 構成図の説明とポイント

**インターネットアクセス：** RTV700 の「WAN ポート」にブロードバンド回線を接続し、インターネットへ接続できるようにします。ブロードバンド回線は、ネットボランチ DNS サービスを利用するためにグローバル IP アドレスが割り当てられる契約である必要があります。RTV700 の「LAN ポート」側はプライベート IP アドレスで、インターネット通信を行うための PC が接続されます。いずれかの PC のブラウザを使用して、RTV700 の設定を行います。

**PBX 主装置：** PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートを PBX 主装置と接続します。PBX 主装置下の電話 A は、ブロードバンド回線によりネットボランチ DNS サーバを経由して相手の RTV700 に接続された電話 D と通信します。NetVolante インターネット電話は IP 電話サービスと相互接続できないため、電話 A は、PBX 主装置に接続された ISDN 回線経由 (①) でのみ電話 B や電話 C と通話できます。

**NetVolante インターネット電話番号：** NetVolante インターネット電話番号は、RTV700 1 台に対して 1 番号だけが割り当て可能です。なお、この番号は自動的に割り当てられるため、希望の番号を選ぶことはできません。NetVolante インターネット電話の発信において、PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートを有効に使うとすると、同時に 6 通話が可能です。

**同期配線：** PBX 主装置が ISDN 回線を収容する場合には、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」とのバス配線が必要になります。またこの時「S/T ポート」で着信を取ってしまわないように、RTV700 側では明示的に ISDN 回線の発着信を禁止する設定にします。

## ○ 6-3 : 必要な設定項目とその手順

下表の左端に示した「手順」の番号順に、「設定手順」で説明された内容の操作を行います。特に手順の 1、7、8、9 番は、この順番に操作を行わないと設定手順に示された内容が画面に現れませんので注意してください。

	設定項目	設定値	設定手順
手順1	WAN ポートの設定		
	回線種別	PPPoE を用いる端末型 ADSL 接続	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [プロバイダ情報の設定] ボタンを押して、必要な情報を ISP の契約書を確認しながら入力する。  ※トップページに戻ったら「プロバイダ接続」欄で正常に接続されること、グローバル IP アドレスを取得できていることを確認する。
	設定名	OFFICE(例)	
	認証 (ユーザ ID)	abcdefg(例)	
	認証 (接続パスワード)	12345xyz(例)	
	DNS サーバアドレス	133.176.200.1(例) 133.176.200.2(例)	

手順2 ISDN ポートの設定 (S/T ポートを使用する場合)			
	内蔵 DSU の使用	使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「本機の ISDN DSU 機能」を変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。  ※ 「ISDN LL」 ランプの点灯を確認する。
	ISDN U ポートの極性	任意	
	契約回線番号	空欄	
LAN ポートの設定			
	IP アドレス	192.168.100.1	設定不要
	ネットマスク	24 ビット	
	DHCP サーバ	192.168.100.1	
	リース IP アドレス	192.168.100.2 - 192.168.100.191	
手順3 PBX1 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX1 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
PBX1 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順4 PBX2 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [PBX2 ポートの設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1,2,3	
PBX2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順5 TEL1 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL1 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	1	
	即時発信	しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL1 ポートの設定] - [電話機対応機能設定] ボタンを押して、「相手番号による即時発信」のみ変更し、「設定の確定」 ボタンを押す。
TEL1 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	

手順6 TEL2 ポートの設定 (ISDN 電話)			
	使用制限	このポートを使用しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL2 ポートの設定] - [基本設定] ボタンを押して、「使用制限」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
	回線番号1	空欄	
	回線番号2	空欄	
	着信ポート優先順位	普通	
	着信を許可する i・ナンバーポートのポート番号	2	
	即時発信	しない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [ISDN 電話の設定] - [TEL1 ポートの設定] - [電話機対応機能設定] ボタンを押して、「相手番号による即時発信」のみ変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
TEL2 ポートの設定 (VoIP 機能)			
	VoIP 機能	使用する	設定不要
	電話ユーザ名	rtv700	
	電話ディスプレイ名	空欄	
	着信許可	すべて許可	
手順7 VoIP の共通設定			
	VoIP 機能	使用する	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [VoIP の共通設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。  ※ 「発信時のプレフィックス設定」欄はこの段階では設定しない。 ※ 「設定の確定」ボタンを押すと本機は自動的に再起動します。
	接続プロバイダ	手順1で設定した「設定名」を選択	
	QoS	QoS を行わない	
手順8 ネットボランチ DNS 電話アドレスサービスの登録			
	接続プロバイダ	手順1で設定した「設定名」を選択	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [ネットボランチ DNS 電話アドレスサービスの設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  ※途中で表示される「ネットボランチ DNS サービス利用規約」に同意する必要がある。
	電話アドレス	使用する	
	IP アドレス変更時の自動更新	する	
	タイムアウト時間	90 秒	
手順9 プレフィックスの設定			
	ISDN 回線	"9#99"(例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [電話の設定] - [VoIP の設定] - [VoIP の基本設定] - [VoIP の共通設定] ボタンを押して、必要な情報を入力する。  ※ ISDN 回線のプレフィックスは、混乱の無いダミー番号を設定する。
	ネットボランチ電話番号	なし = 直接	
手順10 着信動作			
	着信時の着信ベル鳴動モード	順次鳴動させる	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、「着信時の着信ベル鳴動モード」を変更し、「設定の確定」ボタンを押す。
手順11 アザーダイヤルトーン			
	アザーダイヤルトーン	出さない	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、以下のコマンドを入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  analog extension other-dial-tone off

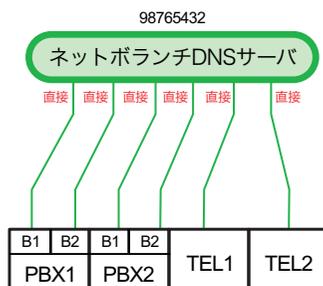
手順 12 RTV700 アクセスのためのパスワード			
	パスワード	himitsu(例)	⇒ [かんたん設定ページ] の [トップページ] の [詳細設定と情報] - [本体の設定] ボタンを押して、必要な情報を入力し、「設定の確定」ボタンを押す。  ※設定後、ブラウザがパスワードを要求する画面を表示したら「ユーザー名」欄には何も入力せず、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力する。

## ○ 6-4 : 設定の詳しい説明

**全体：** ブロードバンド回線の種別に応じたプロバイダの設定を行うことで、RTV700 はインターネットへ接続できるようになります。NetVolante インターネット電話を使用するために RTV700 にはグローバル IP アドレスが割り当てられる必要があります。RTV700 の LAN 側は工場出荷設定ではプライベート IP アドレスなので、インターネット通信を行うためにはアドレス変換が必要になりますが、プロバイダの設定を手順に従って行うことで自動的に必要な設定が行われます。これにより、LAN ポートに接続した PC から Web ページを見たり FTP によるファイルの送受信などができます。

**NetVolante インターネット電話：** NetVolante インターネット電話を使うためには、特別な契約は必要ありません。なお、NetVolante インターネット電話の設定は上記のプロバイダの設定の後に行う必要があります。

ポートの対応：



**着信動作：** NetVolante インターネット電話の着信を PBX1, PBX2, TEL1, TEL2 のすべてのポートへ向けることで、すべての着信を PBX で受けることができます。着信時のベル鳴動モードを「順次鳴動させる」に設定すると、着信のたびに PBX 主装置の空き回線 1 つだけに着信動作させることができます。

「順次鳴動させる」動作：

着信ポート ⇒ PBX1(B1) → PBX1(B2) → PBX2(B1) → PBX2(B2) → TEL1 → TEL2

**ネーム・ディスプレイ：** ポートごとに電話ディスプレイ名が設定できるので、相手がネーム・ディスプレイに対応していればその文字列（未設定の場合は「ネットボランチ電話」）を表示させることもできます。

**プレフィックス設定：** NetVolante インターネット電話のための通信経路はブロードバンド回線のみとなるので、すべての NetVolante インターネット電話の発信を "プレフィックス無し" に設定すればよいことになります。なお、プレフィックス "##" は、NetVolante インターネット電話のために予約されているので、プレフィックス無しでも "##" 付きでも同様に NetVolante インターネット電話への発信の意味になりますが、多くの場合 PBX 主装置では "#" キーが即時発信の意味になるため、"##" は正しく機能しません。

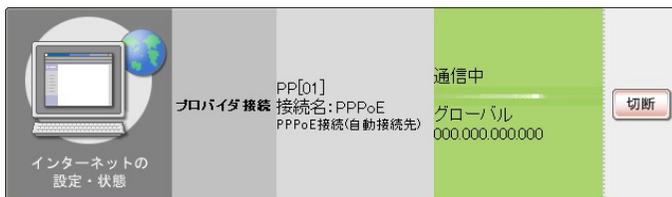
**同期配線：** なお、PBX ポートと PBX 主装置の間でクロックの同期を取るために、RTV700 の ISDN 「S/T ポート」をその ISDN 回線に接続する必要があります。従って、その ISDN 回線はバス配線されている必要があります。また、RTV700 が ISDN 回線からの着信を受けてしまわないように、「S/T ポート」での発着信を禁止する設定が必要となります。

**その他：** RTV700 と回線との接続はブロードバンド回線 1 本なので、回線側にはデータ系と音声系の通信が混在することになり、データのためのトラフィックが大きくなると、音声データが影響を受けて音声途切れる場合があります。

## ○ 6-5：発着信の動作確認と調整

### □ インターネット回線の接続の確認

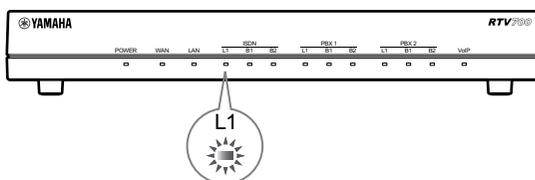
- ① かんたん設定ページの「インターネットの設定・状態」画面が「通信中」表示になり、その下に「グローバル」と表示されることを確認します。  
※表示を最新の状態にするためには、ブラウザの「更新」ボタンを押します。



- ② PC から <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/> 等の Web ページが開けるか確認します。

### □ 同期のための ISDN 回線の接続の確認

- ① RTV700 本体前面の ISDN 「L1」ランプが点灯することを確認します。



### □ ネットボランチ DNS 電話アドレスサービスの登録の確認

- ① かんたん設定ページの「電話の設定・状態」画面の「VoIP」欄の「ネットボランチ電話番号」欄に 8 桁の NetVolante インターネット電話番号が表示されていることを確認します。

□ NetVolante インターネット電話からの発信動作の確認

- ① NetVolante インターネット電話番号を使って、プレフィックス無しで発信して、同時6通話が正常に行えることを確認します。

□ NetVolante インターネット電話からの着信動作の確認

- ① IP 電話サービスからの着信が有るごとに、PBX1(B1), PBX1(B2), PBX2(B1), PBX2(B2), TEL1, TEL2 の順番に着信動作することを確認します。

□ PAD の調整

付録 A-3 「PAD の調整」を参照してください。

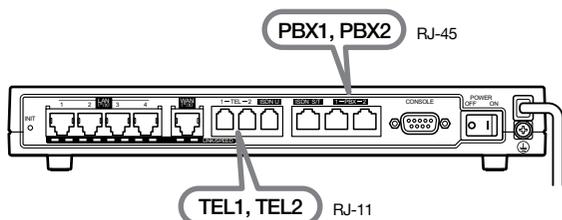
○A-1：設定に関する用語の解説

【PBX ポート】

PBX 主装置の ISDN 回線（基本インタフェース）トランクに接続するためのポートです。RTV700 では PBX1, PBX2 の 2 つのポートを持ちますが、どちらも同等に機能し、別々に設定を与えることもできます。RJ-45 コネクタで接続します。

【TEL ポート】

DP 及び PB 電話機を接続したり、PBX 主装置のアナログ回線トランクに接続するためのポートです。RTV700 では TEL1, TEL2 の 2 つのポートを持ちますが、どちらも同等に機能し、別々に設定を与えることもできます。RJ-11 コネクタで接続します。



【IP 電話サーバ】

インターネットにおける VoIP 機器の電話番号の問い合わせに回答して VoIP 機器の場所を教え、VoIP 機器間の音声通話を確認するために働くコンピュータのことです。通常 IP 電話サービスを行う事業者が有料のサービスとして提供します。

【優先制御 (QoS)】

扱うデータの種類によって転送に優先度を付けることで、RTV700 における優先制御とは、リアルタイム性が要求される音声データを他のデータより優先して音の途切れなどの少ない高品質な通話を実現するための技術です。

【プレフィックス】

発信時の電話番号の先頭に付加することで、発信呼の経路を決めるための 4 桁以内の "# または数字です。"# は 2 桁目にのみ使用可能です。なお、"##" は特別なプレフィックスであり、NetVolante インターネット電話番号以外の経路に設定することはできません。また、次のパターンはプレフィックスとして設定できません (x は任意の数字)。

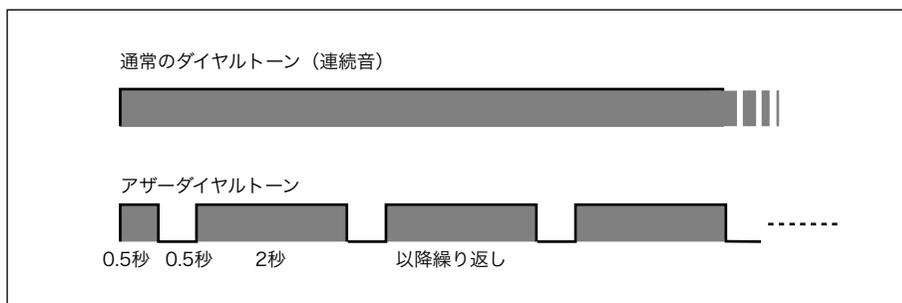
- ① "1"   ② "11"   ③ "110"   ④ "118"   ⑤ "119"   ⑥ "110x"   ⑦ "118x"   ⑧ "119x"

着信転送を利用する場合は、回線側のプレフィックスを数字のみで設定し、"1#, 2# ~ 9#" は設定しないでください。

また、回線側にプレフィックスが設定されている場合、転送先の電話番号にはそのプレフィックスを付けて登録してください。

## 【アザーダイヤルトーン】

RTV700 の ISDN ポートに回線が接続されていない時に、TEL1, TEL2 ポートに接続された電話機の受話器を上げたときに聞こえるダイヤルトーンです。工場出荷設定のアザーダイヤルトーンは通常のダイヤルトーンに変更することができます。



※ Web ページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/sound/>) でサウンドファイルを提供しています。

## 【ネットボランチ DNS】

ネットボランチ DNS とは、一種のダイナミック DNS 機能であり、ルータのグローバル IP アドレスをヤマハが運営するネットボランチ DNS サーバに希望の名前で登録することができます。そのため、動的 IP アドレス環境でのサーバ公開や拠点管理などに用いることができます。IP アドレスの登録、更新などの手順には独自のプロトコルを用いるため、他のダイナミック DNS サービスとの互換性はありません。

ヤマハが運営するネットボランチ DNS サーバは現時点では無料、無保証の条件で運営されています。利用料金は必要ありませんが、ネットボランチ DNS サーバに対して名前が登録できること、および登録した名前が名前解決できることは保証できません。また、ネットボランチ DNS サーバは予告無く停止することがあることに注意してください。ネットボランチ DNS には、ホストアドレスサービスと電話番号サービスの 2 種類があります。ネットボランチ DNS では、個々の RT シリーズ、ネットボランチシリーズルータを MAC アドレスで識別しているため、機器の入れ換えなどをした場合にはネットボランチ電話番号は変更となり、登録した名前は同じものがそのまま利用できません。

### 〈ホストアドレスサービス〉

- ・ 任意の文字列が登録可能。
- ・ 既に他のユーザによって使われている場合や禁止されている特定の文字列は登録できない。

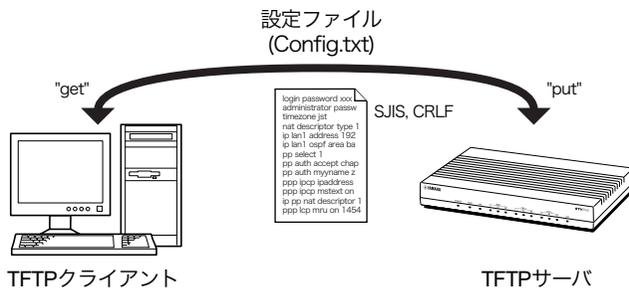
### 〈電話アドレスサービス〉

- ・ 機器に固有の 8 桁の番号を自動割り当て。
- ・ NetVolante インターネット電話の発信、着信に使う。
- ・ 同一機器は別の番号へ変更はできない (機器を入れ替えると番号が変わる)。

## 【設定ファイル】

RTV700 の全体の設定をコマンドの組み合わせで記述したファイルです。TFTP を使用して、PC にプレーンテキストファイルとして保存したり、修正を加えたファイルを RTV700

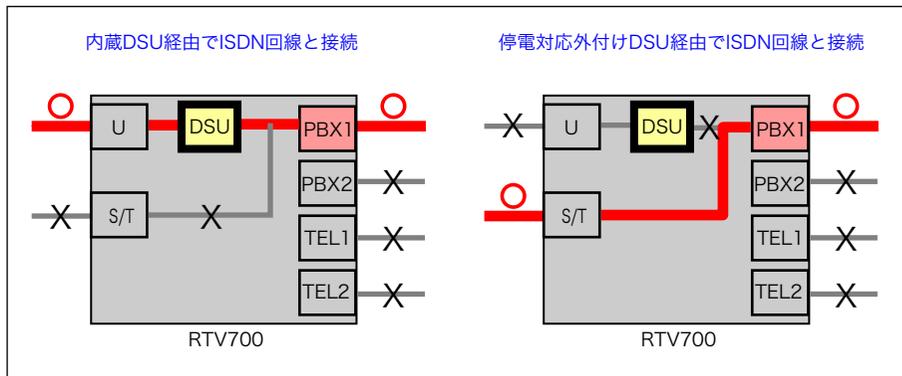
に送り込んで動作を変更することができます。設定ファイルの内容を Config と呼ぶことがあります。内容を見るだけであれば、かんたん設定ページからでも確認できます。



## ○A-2：電源 OFF 時・停電時の動作

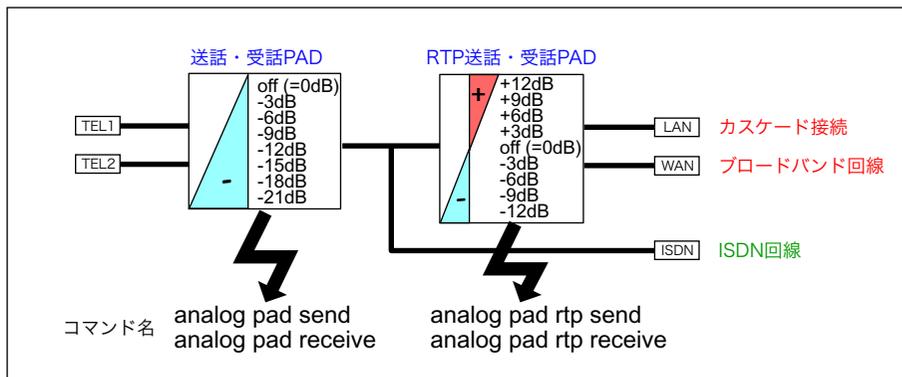
RTV700 の電源消失時は、ISDN S/T ポートと PBX1 ポートが電気物理的に直結された状態になります。内蔵 DSU を使用する場合には内蔵 DSU は局給電で動作可能なため、PBX1 ポートに接続された PBX 主装置が停電対応の場合には、PBX1 ポート経由での音声通話が可能となります。また、外付の DSU を使用する場合、その DSU が局給電で動作し、PBX1 ポートに接続された PBX 主装置が停電対応の場合には、PBX1 ポート経由での音声通話が可能となります。

それ以外の全ての機能は停電時には一切動作しません。従って、RTV700 に設定することで機能する動作（プレフィックスや IP 電話など）も利用できません。



## ○A-3: PADの調整

[かんたん設定ページ]の[トップページ]の[詳細設定と情報] - [コマンドの実行] ボタンを押して、適切なコマンドを入力し、「設定の確定」ボタンを押す。



- 例) TEL1 ポートの送話 PAD を -3dB に変更する場合： `analog pad send 1 -3dB`
- 例) TEL2 ポートの受話 PAD を -6dB に変更する場合： `analog pad receive 2 -6dB`
- 例) TEL1 ポートの RTP 送話 PAD を 0dB に変更する場合： `no analog pad rtp send 1`
- 例) TEL2 ポートの RTP 受話 PAD を -3dB に変更する場合： `analog pad rtp receive 2 -3dB`

参考) PAD 関連コマンドのコマンドリファレンス (Rev.8.00.41 対応版) 記載ページ

`analog pad send` コマンド P164

`analog pad receive` コマンド P164

`analog pad rtp send` コマンド P168

`analog pad rtp receive` コマンド P168

注意) PAD 調整が可能なのは、TEL1 および TEL2 ポートに対してのみです。PBX ポートに対して PAD を設定することはできません。また、TEL1 ポートや TEL2 ポートが使用可能に設定されている必要があります。

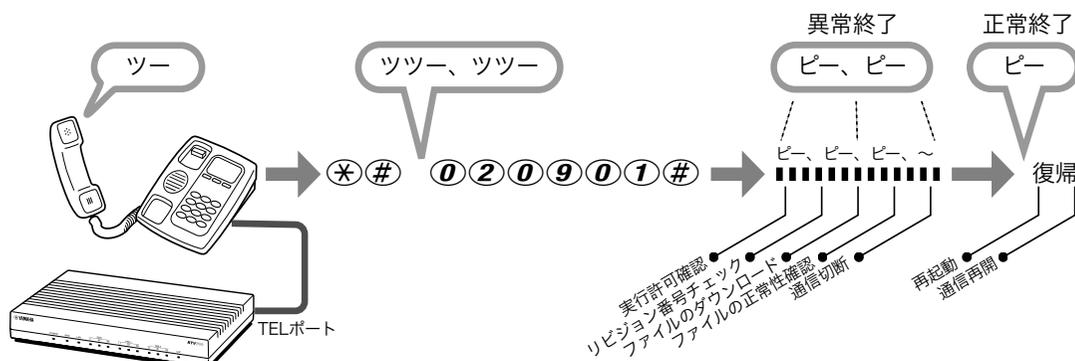
## ○A-4：電話機からのリビジョンアップ

ファームウェアが Rev.8.00.31 以降では、TEL ポートに接続した電話機からの操作でリビジョンアップを行うことができます。この操作では、お使いの RTV700 とヤマハ Web ページに置かれた最新版のファームウェアのリビジョン番号をチェックし、ファームウェアをダウンロードして書き換えるという一連の操作を、電話機からの簡単なボタン操作だけで行うことができます。近くにパソコンが無い場合などに便利で、従来方法に伴う様々な確認の手間や時間を省くことができます。

なお、この操作は次のコンソールコマンドを実行することと同じです。

http revision-up go

操作のイメージ：



※ Web ページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/sound/>) でサウンドファイルを提供しています。

この操作を行う前の注意事項：

- ・ この機能は、RTV700 のファームウェアが Rev.8.00.31 以降でだけ利用できます。
- ・ TEL1 ポートまたは TEL2 ポートに接続された PB 電話機からのみ操作できます。PBX ポートから、及び、TEL ポートに接続された DP 電話機からは利用できません。
- ・ インターネットへ接続するための設定が必要です。LAN 間接続などの場合で、インターネットへの経路が無い場合には、この方法でリビジョンアップすることはできません。
- ・ ヤマハの Web ページに置かれた最新版にファームウェアを更新します。古いリビジョンへの変更や、指定したリビジョンへの変更はできません。なお、RTV700 のファームウェアが既に最新版の時にこの操作を行った場合には、実行結果音は異常終了扱い（ピー、ピー音）になります。
- ・ リビジョンアップが完了すると、RTV700 は自動的に再起動されるため、すべての通信が切断されます。常時接続を行う設定の場合には、再起動後に自動的に接続処理が行われます。
- ・ リビジョンアップ中は絶対にケーブルを抜いたり、電源を切ったりしないでください。RTV700 が使えなくなり、持ち込み修理が必要となる場合があります。
- ・ この機能は初期設定では実行可能になっていますが、コマンドにより実行禁止にすることができます。実行禁止にする場合は、次のコンソールコマンドで設定を変更してください。

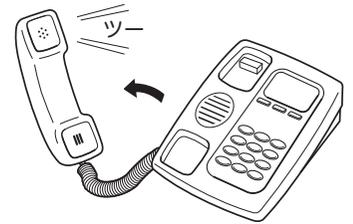
analog http revision-up permit off

- ・ リビジョンアップの中断は、動作の後半になると受話器を置いても動作が中断できない場合があります。
- ・ console info on の設定にしておくと、コンソール画面に実行状況がリアルタイムで表示されます。

## リビジョンアップの手順：

### ① 受話器を上げる。

「ツー」という発信音が聞こえます。  
※アザーダイヤルトーンの場合もあります。



### ② 電話機から、次のボタンを押す。

**＊ # 0 2 0 9 0 1**

### ③ 電話機から、**#**を押す。

ファームウェアの更新情報、実行許可かどうかチェックされます。

→新しいファームウェアがあった場合：「ピー、ピー、、」というやや高い繰り返し音。

ファームウェアファイルのダウンロードが行われます。

手順④の実行結果音が聞こえるまで数分かかることがあります。受話器から耳を離さないでください。

リビジョンアップを中断したい場合には、手順⑤に進みます。

→新しいファームウェアが無い、実行許可されていない場合：「ピー、ピー」という音。

その後すぐに「ツツー、ツツー」という繰り返し音に変わり電話機からの各種設定が行える状態になります。

手順⑤に進みます。

### ④ 受話器から実行結果の音が聞こえます。

→正常終了した場合：「ピー」という音。

RTV700 は通信切断処理を行い、その後再起動します。

常時接続の場合には、再起動後に通信を再接続します。

→異常終了した場合：「ピー、ピー」という音。

その後すぐに「ツツー、ツツー」という繰り返し音に変わり電話機からの各種設定が行える状態になります。

⑤ 受話器を置く。

⑥ 必要であれば、リビジョン番号を確認する。

かんたん設定ページのトップページで確認するか、  
コンソールでログインして表示されるメッセージ  
を確認します。



## ○A-5 : FUSION IP-Phone の登録

FUSION IP-Phone サービスの申し込み内容を RTV700 の IP 電話サーバに登録する時の情報の対応関係を次に示します。

FUSION IP-Phone の登録情報

通知される情報	例
IP 電話加入番号	05012345678
アカウント ID	815012345678
IP 加入電話パスワード	password
SIP プロキシ	61.114.168.10
SIP ドメイン	fusion.sip.0038.net

かんたん設定ページとの対応

The screenshot shows the '電話の設定' (Phone Settings) page with the 'IP電話サーバの設定' (IP Phone Server Settings) section highlighted. The 'IP電話サーバの登録' (IP Phone Server Registration) section is also highlighted. The following table shows the mapping between the registration information table and the form fields:

Registration Information	Form Field
IP 電話加入番号 (05012345678)	電話ディスプレイ名 (05012345678)
アカウント ID (815012345678)	ユーザID (815012345678)
IP 加入電話パスワード (password)	パスワード (password)
SIP プロキシ (61.114.168.10)	サーバアドレス (61.114.168.10)
SIP ドメイン (fusion.sip.0038.net)	sip アドレス (sip: 815012345678@fusion.sip.0038.net)

## ○A-6：プレフィックスの設定について

プレフィックスはかんたん設定ページからとコマンド入力による2つの方法により設定ができます。プレフィックスを付ける対象にはISDN回線、インターネット電話帳、IP電話サーバ、ネットボランチ電話番号の4種類があります。かんたん設定ページの設定では、これら4種類に重複したプレフィックスを設定できないことに注意してください。本書のケースでは重複したプレフィックスを利用するためにかんたん設定ページとコマンドを組み合わせて設定を行う方法を紹介しています。

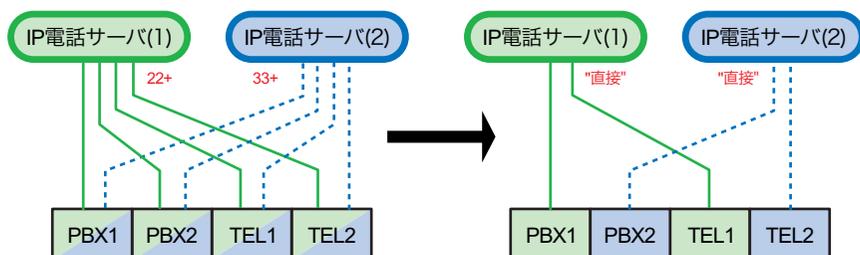
TELポートとPBXポートのプレフィックス同時生成について

[トップページ] - [電話の設定] - [VoIPの設定] - [VoIPの共通設定] 画面の「発信時のプレフィックスの設定」画面では、次のようなルールでTELポートとPBXポートのプレフィックスに関する設定が同時に生成されます。

- ・ ISDN回線で "直接" を選択した場合  
isdn dial prefix line  
analog extension dial prefix line
- ・ ISDN回線で "9999" を指定した場合  
isdn dial prefix line prefix="9999"  
analog extension dial prefix line prefix="9999"
- ・ IP電話サーバ(1)で "直接" を指定した場合  
isdn dial prefix sip server=1  
analog extension dial prefix server=1
- ・ IP電話サーバ(2)で "0000" を指定した場合  
isdn dial prefix sip server=2 prefix="0000"  
analog extension dial prefix server=2 prefix="0000"

重複したプレフィックスの付け方 (例)

IP電話サーバのプレフィックスは、かんたん設定ページからは重複して設定できません。従って、一旦設定したものをコマンドで修正する必要があります。例えば、IP電話サーバ(1)とIP電話サーバ(2)のプレフィックスをかんたん設定ページから"22"と"33"に仮設定した場合に、両方のプレフィックスを"直接"にするためには、以下の修正のためのコマンドを実行します。



○かんたん設定ページが生成するコマンド (TEL ポート・PBX ポート共通)

isdn dial prefix sip server=1 prefix="22" : PBX の IP 電話サーバ (1) で "22" の登録  
isdn dial prefix sip server=2 prefix="33" : PBX の IP 電話サーバ (2) で "33" の登録  
analog extension dial prefix sip server=1 prefix="22" : TEL の IP 電話サーバ (1) で "22" の登録  
analog extension dial prefix sip server=2 prefix="33" : TEL の IP 電話サーバ (2) で "33" の登録

○修正のためのコマンド (PBX ポート)

no isdn dial prefix sip server=1 prefix="22" : PBX の IP 電話サーバ (1) で "22" の抹消  
no isdn dial prefix sip server=2 prefix="33" : PBX の IP 電話サーバ (2) で "33" の抹消  
isdn dial prefix nt-bri1 sip server=1 : PBX1 の IP 電話サーバ (1) で "直接" の登録  
isdn dial prefix nt-bri2 sip server=2 : PBX2 の IP 電話サーバ (2) で "直接" の登録

○修正のためのコマンド (TEL ポート)

no analog extension dial prefix sip server=1 prefix="22" : TEL の IP 電話サーバ (1) で "22" の抹消  
no analog extension dial prefix sip server=2 prefix="33" : TEL の IP 電話サーバ (2) で "33" の抹消  
analog extension dial prefix port=1 sip server=1 : TEL1 の IP 電話サーバ (1) で "直接" の登録  
analog extension dial prefix port=2 sip server=2 : TEL2 の IP 電話サーバ (2) で "直接" の登録

○最終的な Config

```
isdn dial prefix nt-bri1 sip server=1
isdn dial prefix nt-bri2 sip server=2
analog extension dial prefix port=1 sip server=1
analog extension dial prefix port=2 sip server=2
```

## ○A-7: LAN ポートの IP アドレス変更について

### 変更箇所:

LAN ポートの IP アドレスを変更する場合には、以下の 3 つがセットで適切に設定されている必要があります。

- ・ LAN ポートの IP アドレス
- ・ DHCP サービスの割り当て IP アドレスの範囲 (DHCP スコープ)
- ・ ファイアウォールの設定

### 設定を変更する作業のポイント:

- 1) 簡単設定ページへアクセスするための URL も変更になります。
- 2) LAN ポートへ TELNET 接続で設定していた場合には、変更した直後から応答がなくなりますので、新しい IP アドレスでアクセスし直してください。不都合がある場合には CONSOLE ポートからアクセスして設定変更することをお勧めします。
- 3) LAN ネットワークに接続されたパソコンを再起動して、パソコン側のネットワークの設定を更新してください。パソコンが自動設定でなく固定で設定されている場合には、ネットワークに関する設定を手動で変更してください。
- 4) カスケード接続する場合は、親機と子機の LAN ポートは異なる IP アドレス、かつ同じネットマスクにする必要があります。また、親機を DHCP サーバとして動作させ、子機は DHCP サーバとして動作しないように変更してください。

### DHCP の設定変更のルール:

・ IP アドレスとネットマスクから決定されるネットワークの IP アドレスの範囲の中から、RTV700 自身と固定 IP アドレスを持つ端末を除いた部分を割り当てます。

・ IP アドレスの末尾が 0 と 255 は予約されており端末が使用することができませんので、最大では末尾が 1~254 までの範囲から割り当てます。

(例 1) 192.168.200.1/24 に変更し、192.168.200.2 を除外し、192.168.200.3-192.168.200.191 の 189 台分を割り当て。

(例 2) 192.168.100.254/24 に変更し、192.168.100.1-192.168.100.253 の 253 台分を割り当て。

### ファイアウォールの設定の更新:

ファイアウォールの設定は、プロバイダの設定を行うと自動的に設定されます。IP アドレスを変更した後にこの設定を適切に設定しなおす場合は、[ 詳細設定と情報 ]-[ 基本接続の詳細な設定 ]で、[ ファイアウォール機能を適用しなおす ]にチェックを入れ、画面下の [ 登録の確定 ] ボタンをクリックします。

## ○A-8 : WAN ポートのイーサネット通信モードについて

WAN ポートと WAN ポートに接続する ADSL モデルや ONU とは、イーサネットのレベルで通信モードが一致している必要があります。以下のポイントに注意してください。

- ・通信速度と、全二重・半二重・オートネゴシエーションの違い、の2つを一致させる必要があります。

- ・ADSL モデムや ONU は通常オートネゴシエーションであり、RTV700 の WAN ポートも工場出荷設定ではオートネゴシエーションです。

- ・オートネゴシエーション以外に設定変更する場合には、コマンド入力による設定が必要です。

例) WAN ポート (lan2 インタフェース) を、10Mbit/s で半二重に変更する場合 :

```
# lan type lan2 10-hdx
# save
```

- ・通信モードが正しいかどうかは、コマンド入力により知ることができます。

例) WAN ポート (lan2 インタフェース) の通信モードを知る場合 :

```
> administrator
Password:
# show status lan2
LAN2:
イーサネットアドレス :          00:a0:de:08:bd:65
動作モード :                    100BASE-TX Full Duplex
最大パケット長 (MTU) :          1500 オクテット
プロミスキャスモード :          OFF
送信パケット :                   1 パケット (78 オクテット)
受信パケット :                   2 パケット (138 オクテット)
# save
```